

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年6月28日
【事業年度】	第54期（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）
【会社名】	ソレキア株式会社
【英訳名】	Solekia Limited
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 小林 義和
【本店の所在の場所】	東京都大田区西蒲田八丁目3番3号
【電話番号】	03(3732)1131(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 宮崎 雅司
【最寄りの連絡場所】	東京都大田区西蒲田八丁目3番3号
【電話番号】	03(3732)1131(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 宮崎 雅司
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次 決算年月	第50期 平成20年3月	第51期 平成21年3月	第52期 平成22年3月	第53期 平成23年3月	第54期 平成24年3月
売上高(千円)	24,770,233	23,089,822	17,987,747	18,085,759	18,816,606
経常利益又は経常損失() (千円)	668,938	441,948	140,824	45,425	123,301
当期純利益又は当期純損失 ()(千円)	262,396	332,737	6,744	49,178	244,894
包括利益(千円)	-	-	-	32,413	248,988
純資産額(千円)	5,690,069	5,821,937	5,814,538	5,818,852	5,531,834
総資産額(千円)	14,704,139	11,979,260	11,871,165	12,066,303	11,716,813
1株当たり純資産額(円)	586.42	615.82	615.44	615.80	585.54
1株当たり当期純利益金額又 は1株当たり当期純損失金額 ()(円)	26.54	34.67	0.71	5.20	25.92
潜在株式調整後1株当たり当 期純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	38.7	48.6	49.0	48.2	47.2
自己資本利益率(%)	4.6	5.8	0.1	0.8	4.3
株価収益率(倍)	7.2	3.5	208.5	24.2	-
営業活動によるキャッシュ・ フロー(千円)	801,974	1,076,268	1,083,933	106,326	155,863
投資活動によるキャッシュ・ フロー(千円)	98,904	193,370	30,796	75,882	105,050
財務活動によるキャッシュ・ フロー(千円)	12,692	909,917	116,673	28,099	38,029
現金及び現金同等物の期末残 高(千円)	2,876,452	2,845,411	3,784,134	3,784,449	3,795,941
従業員数(人)	861	852	840	838	840

- (注) 1. 第50期、第51期、第52期及び第53期において、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。
2. 第54期において、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 売上高には消費税等は含まれておりません。
4. 第54期の株価収益率については、当期純損失であるため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次 決算年月	第50期 平成20年3月	第51期 平成21年3月	第52期 平成22年3月	第53期 平成23年3月	第54期 平成24年3月
売上高(千円)	24,043,820	22,698,450	17,730,743	17,860,034	18,633,325
経常利益又は経常損失() (千円)	655,281	386,962	157,941	49,678	88,097
当期純利益又は当期純損失 ()(千円)	280,125	332,223	7,582	49,262	244,819
資本金(千円)	2,293,007	2,293,007	2,293,007	2,293,007	2,293,007
発行済株式総数(株)	10,169,610	10,169,610	10,169,610	10,169,610	10,169,610
純資産額(千円)	5,689,785	5,821,140	5,814,579	5,818,977	5,532,034
総資産額(千円)	14,613,961	11,953,043	11,853,296	12,071,276	11,702,121
1株当たり純資産額(円)	586.39	615.74	615.44	615.81	585.56
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額) (円)	6 (-)	5 (-)	3 (-)	4 (-)	4 (-)
1株当たり当期純利益金額又 は1株当たり当期純損失金額 ()(円)	28.33	34.62	0.80	5.21	25.91
潜在株式調整後1株当たり当 期純利益金額(円)	-	-	-	-	-
自己資本比率(%)	38.9	48.7	49.1	48.2	47.3
自己資本利益率(%)	4.9	5.8	0.1	0.8	4.3
株価収益率(倍)	6.7	3.5	185.0	24.2	-
配当性向(%)	21.2	14.4	375.0	76.8	-
従業員数(人)	846	829	822	818	822

- (注) 1. 第50期、第51期、第52期及び第53期において、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式がないため記載しておりません。
2. 第54期において、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
3. 売上高には消費税等は含まれておりません。
4. 第54期の株価収益率及び配当性向については、当期純損失であるため記載しておりません。

2【沿革】

年月	事項
昭和33年9月	東京特殊電線株式会社関連会社、富士通株式会社特約店、富士電機株式会社取扱店として資本金50万円で小林電材株式会社設立、本社を東京都大田区女塚四丁目10番地に置く。
昭和34年3月	本社を東京都大田区小林町141番地に移転。
昭和35年2月	本社を東京都大田区西蒲田八丁目16番6号に移転。
10月	大阪販売店（現、テクノロジー・プロダクツ事業部 第三営業部）設置。
昭和38年9月	富士通株式会社と電子部品特約店契約を締結。
昭和40年4月	富士電機株式会社半導体取扱店となる。
昭和42年4月	富士通株式会社電子計算機システム（FACOM）販売特約店となる。
昭和43年6月	小諸出張所（現、長野支店）設置。
11月	株式会社城南電子計算センター（株式会社コバデン・ジェイシステム）設立。
昭和44年6月	商号を小林電子産業株式会社に変更。
7月	高崎出張所（現、群馬支店）設置。
昭和45年10月	富士通株式会社とFACOMディーラー契約を締結。
昭和46年4月	仙台出張所（現、東北支店）設置。
10月	本社CE部（現、首都圏第一インフラサービス統括部 第一カスタマサービス部）設置。
昭和49年10月	高松出張所（現、高松支店）設置。
昭和52年5月	大阪CE部（現、OBPCカスタマサービス部）設置。
昭和54年1月	富士通株式会社とFACOM電算機及び関連機器の保守委託契約を締結。
昭和55年3月	京都営業所（現、京都支店）設置。
昭和56年2月	本社を東京都大田区西蒲田八丁目3番3号に移転。
5月	松山分室（現、松山支店）設置。
6月	宇都宮営業所（現、宇都宮支店）設置。
7月	諏訪分室（現、諏訪支店）設置。
昭和57年10月	富士通株式会社と富士通ディーラー契約を締結。
昭和58年3月	福島分室（現、福島支店）設置。
昭和59年3月	大阪営業所よりコンピュータ営業部門を独立し、大阪ファコム営業所（現、大阪支店）設置。
"	北関東CE部（現、群馬カスタマサービス部）設置。
昭和62年4月	資本金を3億20万円に増資。
"	富士通株式会社と富士通電子部品特約店契約及び富士通半導体製品特約店（A）契約を締結。
10月	富士通株式会社と富士通システム機器ディーラー契約を締結。
昭和63年3月	長野CE部（現、上田カスタマサービス部）設置。
4月	東京特殊電線株式会社と取引基本契約を締結。
平成元年4月	関東支店設置。
平成2年4月	資本金を6億5,170万円に増資。社団法人日本証券業協会（現、日本証券業協会）に株式を店頭登録。
平成5年4月	KOBADEN DESIGNER BUSINESS SOLUTIONS, INC. 設立。
"	富士通ピー・アンド・エス株式会社（現、富士通コワーコ株式会社）と富士通ピー・アンド・エス機器ディーラー契約を締結。
7月	富士通株式会社と富士通電子デバイス製品取引基本契約を締結。
平成9年8月	資本金を12億850万円に増資。
平成10年3月	KOBADEN SINGAPORE PTE LTD（現、SOLEKIA SINGAPORE PTE.LTD.）設立。
平成11年4月	コバデン・プロダクツ株式会社（現、ソレキア・プラッツ株式会社）設立。
平成11年9月	資本金を22億9,300万円に増資。
平成11年10月	富士通株式会社と富士通パートナー契約を締結。
平成14年4月	商号をソレキア株式会社に変更。
平成16年12月	日本証券業協会への店頭登録を取消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場。
"	KOBADEN DESIGNER BUSINESS SOLUTIONS, INC. の解散。
平成18年3月	株式会社コバデン・ジェイシステムからの営業の全部譲受け。
"	株式会社コバデン・ジェイシステムの解散。
平成22年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQ（現、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)）に株式を上場

3【事業の内容】

当社グループ（当社および当社の関係会社）は当社（ソレキア株式会社）および子会社2社で構成されており、電子デバイス、半導体などのコンポーネント・デバイス・ソリューション、システムインテグレーションなどのICTソリューションならびにマネジメント・サービスおよびフィールドサービスなどのサービスを主な事業としております。

当社グループの事業内容および当社と関係会社の当該事業に係る位置付け等は、次のとおりであります。

なお、次の3部門は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等（1）連結財務諸表 注記事項」に掲げるセグメントの区分と同一であります。

首都圏

首都圏は、本社および都内に位置する拠点で構成され、主な商品は、電子デバイス、半導体などのコンポーネント・デバイス・ソリューション、システムインテグレーションなどのICTソリューションならびにマネジメント・サービスおよびフィールドサービスなどのサービスであり、当社が販売・サービスの提供を行っております。

なお、電子デバイス・半導体・電線およびその加工品の一部を東京特殊電線株式会社（法人主要株主）より仕入れております。

東日本

東日本は、首都圏を除く東日本に位置する支店および拠点で構成され、主な商品は、システムインテグレーションなどのICTソリューションならびにマネジメント・サービスおよびフィールドサービスなどのサービスであり、当社が販売・サービスの提供を行っております。

西日本

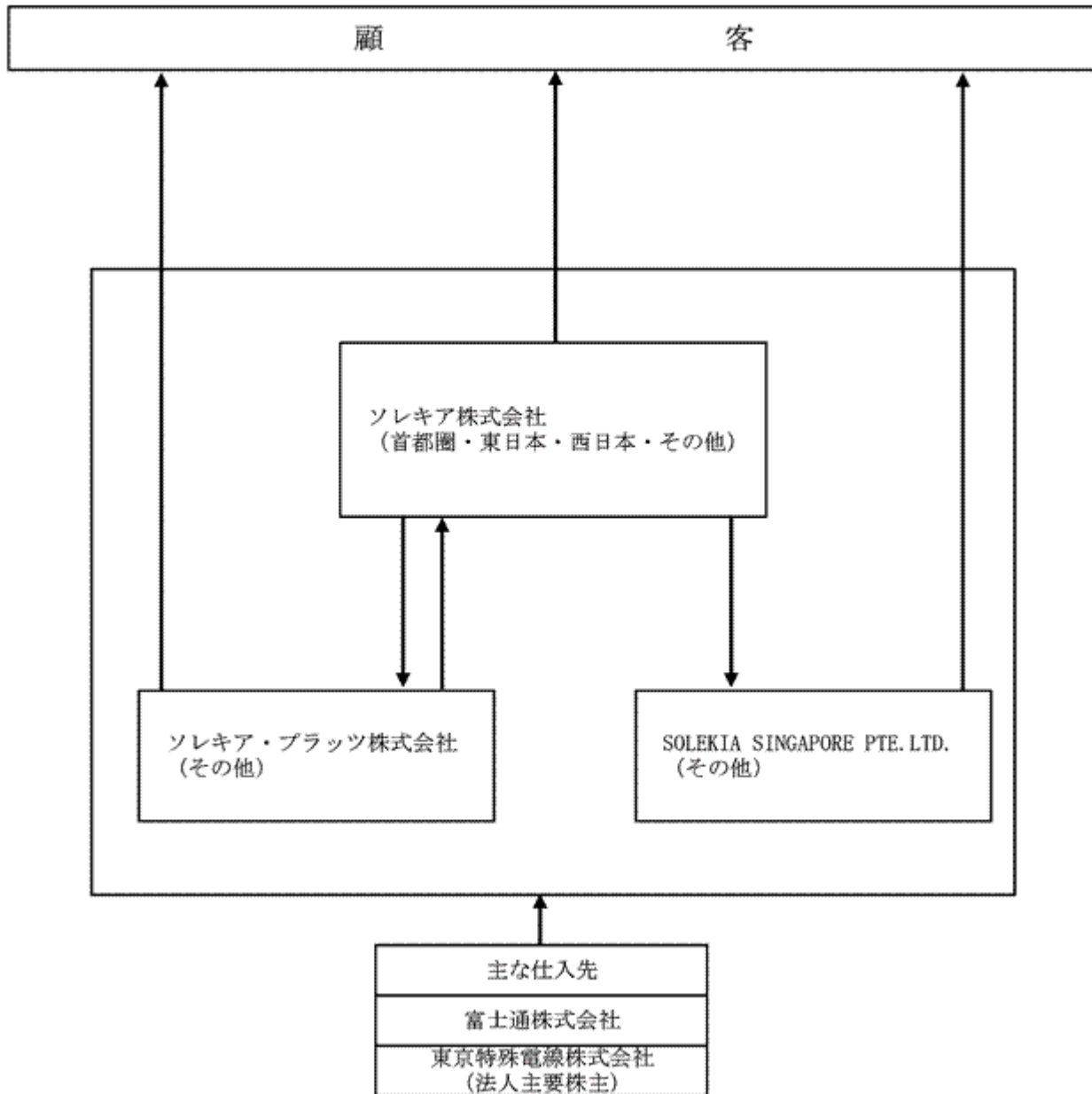
西日本は、西日本に位置する支店および拠点で構成され、主な商品は、電子デバイス、半導体などのコンポーネント・デバイス・ソリューション、システムインテグレーションなどのICTソリューションならびにマネジメント・サービスおよびフィールドサービスなどのサービスであり、当社が販売・サービスの提供を行っております。

その他

その他は、当社の上記3部門に含まれない部署および連結子会社2社（ソレキア・プラッツ株式会社およびSOLEKIA SINGAPORE PTE.LTD.）で構成され、主な商品は、電子デバイス、半導体などのコンポーネント・デバイス・ソリューション、システムインテグレーションなどのICTソリューションならびにマネジメント・サービスおよびフィールドサービスなどのサービスであります。

[事業系統図]

以上述べた事項を事業系統図によって示すと、次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	事業内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容				
					役員の兼 任	資金援助 (千円)	営業上の取 引	設備の 賃貸借	業務提 携等
(連結子会社)									
ソレキア・ブラッツ(株)	東京都大田区	千円 30,000	システムおよびソフトウェアの開発・販売ならびに機器の保守	直接 100.0	有	110,000	機器の保守・修理委託	建物の賃貸	なし
SOLEKIA SINGAPORE PTE. LTD.	シンガポール共和国	千シンガ ポールドル 200	半導体等の販売およびシステムサポート	直接 100.0	有	95,000	半導体等の販売	なし	なし

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
首都圏	422
東日本	169
西日本	132
その他	117
合計	840

(注) 1. 従業員数は就業人員であります。

2. その他として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門及び連結子会社に所属しているものであります。

(2) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数(人)	平均年令(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
822	41.32	17.22	5,554,484

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(人)
首都圏	422
東日本	169
西日本	132
その他	99
合計	822

(注) 1. 従業員数は就業人員であります。

2. 平均年間給与は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。

3. その他として記載されている従業員数は、特定のセグメントに区分できない管理部門に所属しているものであります。

(3) 労働組合の状況

当社グループでは労働組合は結成されておりません。なお、当連結会計年度の労使関係において特記すべき事項はありません。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災による落ち込みからサプライチェーンの復旧に伴い持ち直しの動きなど緩やかな回復基調が見られましたが、タイの洪水の影響、円高の進行、原油価格の高騰、欧州債務問題の深刻化、海外経済の減速などに伴う輸出の伸び悩みならびに生産の停滞などにより、全体として減速感と先行き不透明な状態で推移しました。

ICT投資においては、システムの更新、事業継続計画（BCP）ならびに生産性向上に直結する案件などへの優先的投資に関心が寄せられましたが、景気の先行き不透明感を背景に企業は投資に慎重な姿勢を継続しており、本格的な回復への動きには至っておりません。

このような事業環境のもと、お客様の多様なニーズへの迅速かつ的確な対応ならびにサービスビジネスのさらなる強化を目指して、新しいソリューションならびにサービスビジネスを積極的に推進し、成長が期待できる新規市場、成長市場への拡販活動によるビジネス機会の拡大に努めるとともに、既存のお客様には付加価値のあるソリューション・サービスの提案による継続的な受注の確保に注力しました。低迷する経済ならびにグローバルな規模での企業間競争を背景に、企業の総所有コスト（TCO）の削減と業務効率化の向上が可能なクラウド・コンピューティング・サービスならびにアウトソーシングサービスへの関心が顕在化し、業務プロセスの改善ならびに明確なコスト削減に直結する付加価値のある最適なソリューション、マネジメント・サービスメニューの提案により、比較的規模の大きな案件も成約できました。また、東日本大震災からITを活用した復興支援に取り組むとともに、事業継続計画ならびに災害復旧対策としてのデータバックアップサービス、データセンター利用への関心の高まりから、商品・サービスの提案の強化は着実に商談案件の増加につながり、マネジメント・サービス・ビジネスの基盤は整いつつあります。

クラウド・コンピューティング技術ならびにスマートフォンやタブレットなどのモバイルの普及に伴い、経済のグローバル化、災害によるサプライチェーンの混乱、省エネルギー問題などを背景に、人と社会の利便性の向上に向けた「スマートな社会づくり」の担い手として、ICTの役割の重要性が注目されています。社会のスマート化に向けて、環境、災害、電力、医療などの分野における新しいソリューションならびにサービスの新しいビジネス機会を契機に積極的な事業展開を推進するため、スマートフォンを介してのお客様業務支援ソリューション、クラウド・コンピューティング基盤の構築に鋭意取り組みました。また、グローバル化に対応するため、お客様のサポートサービスの提供を推進する体制として、ベトナムにおける拠点の整備に着手しました。

経営基盤の強化については、業務プロセスの改善や効率化に向けた基幹業務システムプロジェクトの継続的な推進、情報セキュリティ確保の活動、夏季電力ピーク期間の節電対策、不採算プロジェクト撲滅に向けてプロジェクト管理のさらなる強化ならびにソリューション・サービス提案力向上などの教育による人材育成に取り組みました。

コンポーネント・デバイス・ソリューション分野においては、東日本大震災、タイの洪水によるサプライチェーンの混乱の影響等から半導体・電子部品の需要の後退による減収を余儀なくされました。

ICTソリューション・サービス分野においては、パソコン、サーバ、情報機器などのハードウェアの販売活動が生活協同組合、農業協同組合、情報サービス業での大型商談の成約につながり、またアウトソーシングやシステムソリューションをはじめマネジメント・サービス商談の堅調な推移により増収となりました。

システムソリューション分野では、新規ERP関連ビジネスは減少しましたが、海外拠点の連携システム、サーバの仮想化、クラウドサービスとのハイブリッド化などインフラ基盤商談を着実に成約しました。RFIDシステムによる新規ソリューションなどの提供により新技術分野のノウハウの蓄積も着実に進めることができました。しかしながら、前期から継続中のシステム開発案件の一部に仕損じによる不採算プロジェクトが発生しました。

フィールドサービス分野においては、インフラサービスを中心としたライフ・サイクル・マネジメント・サービスの積極的な受注活動を推進するとともに、品質・効率化・優れたサービスの提供に注力しました。ネットワークの高度化やICTの技術革新に対応してお客様満足度向上に向けた情報技術の資格取得ならびに教育を推進しました。

当社グループの当連結会計年度の業績は、半導体・電子部品の売上減少に対して、パソコン、サーバ、情報機器のハードウェア、システムインテグレーション、アウトソーシングなどのマネジメント・サービスの伸長により、売上高は188億16百万円（前期比4.0%増）となりました。

損益面におきましては、ICTソリューション・サービスの売上増、業務効率化、諸経費の削減に対して、価格競争激化や前期からの継続プロジェクトにおける仕損じによる不採算プロジェクトの発生、退職給付債務の計算に用いる割引率の変更に伴う退職給付債務の積み上げなどの影響による原価率の上昇などのため、営業損失1億44百万円（前期は31百万円の営業利益）、経常損失1億23百万円（前期は45百万円の経常利益）となりました。当期純損失は、固定資産の減損損失など特別損失を89百万円計上したことにより2億44百万円（前期は49百万円の当期純利益）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

〔首都圏〕は半導体・電子部品の売上は減少しましたが、パソコン、サーバ、情報機器、ソフトウェア、アウトソーシングの売上の増加により、売上高は109億65百万円（前期比7.2%増）となりました。損益につきましては、不採算プロジェクトの発生、退職給付債務の積み上げなどの影響により、営業損失2億18百万円（前期は30百万円の営業利益）となりました。

〔東日本〕は文教、自治体商談が堅調に推移し、売上高は40億19百万円（前期比0.5%増）となりました。営業利益は、売上高の増加により35百万円（前期比14.0%増）となりました。

〔西日本〕は半導体・電子部品の売上減少に対して、システムソリューション・サービス、アウトソーシングビジネスなどの大型商談により、売上高は36億26百万円（前期比4.0%増）となりました。営業利益は、売上高の増加等により1億99百万円（前期比27.6%増）となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ、11百万円増加し、37億95百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は、1億55百万円となりました。その主な要因は、税金等調整前当期純損失2億12百万円、売上債権の増加3億69百万円、仕入債務の減少4億76百万円などで資金の減少があった一方、たな卸資産の減少が6億99百万円、退職給付引当金の増加1億71百万円、未払消費税等の増加1億22百万円、減損損失が86百万円、減価償却費が61百万円などで資金の増加となったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果減少した資金は、1億5百万円となりました。その主な要因は、有形固定資産の取得による支出が27百万円、ソフトウェアの取得による支出が69百万円などによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果減少した資金は、38百万円となりました。この主な要因は、配当金の支払額が37百万円となったことなどによるものであります。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度の生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	前年同期比(%)
首都圏(千円)	3,535,346	106.4
東日本(千円)	1,190,361	87.5
西日本(千円)	1,020,241	116.2
報告セグメント計(千円)	5,745,949	103.3
その他(千円)	328,194	100.2
合計(千円)	6,074,144	103.1

- (注) 1. 金額は、発生原価で表示しており、消費税等は含まれておりません。
2. セグメント間の取引については、相殺消去しております。

(2) 商品仕入実績

当連結会計年度の商品仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	前年同期比(%)
首都圏(千円)	5,214,573	97.1
東日本(千円)	1,849,548	77.8
西日本(千円)	1,763,133	96.0
報告セグメント計(千円)	8,827,255	92.1
その他(千円)	107,470	101.8
合計(千円)	8,934,725	92.2

- (注) 1. 金額は、仕入価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。
2. セグメント間の取引については、相殺消去しております。

(3) 受注状況

当連結会計年度の受注状況をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高 (千円)	前年同期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同期比 (%)
首都圏	10,249,235	98.6	1,092,275	82.7
東日本	3,892,683	84.9	428,917	41.1
西日本	3,680,195	104.4	554,216	110.7
報告セグメント計	17,822,114	96.3	2,075,409	72.4
その他	205,003	57.2	2,296	101.6
合計	18,027,117	95.6	2,077,705	72.5

- (注) 1. 金額は、販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。
2. セグメント間の取引については、相殺消去しております。

(4) 販売実績

当連結会計年度の販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	前年同期比(%)
首都圏(千円)	10,965,506	107.2
東日本(千円)	4,019,454	100.5
西日本(千円)	3,626,677	104.0
報告セグメント計(千円)	18,611,638	105.1
その他(千円)	204,967	54.6
合計(千円)	18,816,606	104.0

(注) 1. セグメント間の取引については、相殺消去しております。

2. 前連結会計年度及び当連結会計年度における主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)		当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
株式会社富士通エフサス	3,303,274	18.3	3,423,355	18.2

3. 記載金額には消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

欧米諸国経済の低成長ならびに政府債務問題など世界の景気の先行き不透明感の高まり、原材料価格の高騰、不安定な為替相場、雇用情勢の低迷、電力事情などの要因に加えて経済のグローバル化の加速から、国内景気は先行き不確実性の高い状況が持続するものと予想されます。企業経営においては、将来を予測しながら選別的な投資を実行することによる競争優位の維持・強化が重要な課題となってきております。

また、高機能端末ならびにネットワークの高度化、クラウド・コンピューティング技術の進歩に伴い、産業ならびに企業間競争の構造的変化が急速に進み、ICTの活用は社会の諸課題の解決を担う重要な役割を期待されております。

刻々変化する経済・市場・技術などの経営環境に対して、次の諸施策に取り組み、企業価値のさらなる向上を図ってまいります。

お客様の多様なニーズに的確に対応するソリューション・サービスの提供

ICTに求められる機能や役割は大きく変化し、ICT戦略の優位性は、お客様企業の勝ち残りの重要な条件となることから、お客様の事業ならびにニーズの変化スピードの加速化に対して、業種や業務分野ごとの市場のマーケティングの継続的な強化に取り組み、お客様のビジネス競争力に付加価値を加えるソリューション・サービスの提供に努めます。

企業の投資への慎重な姿勢は維持され、サービスに対するお客様の選別的姿勢は今後さらに強まる傾向との認識のうえに、サービスメニューの拡充、信頼される品質や優れたサービスを迅速かつ適正な価格水準による提供を目指します。引き続き、サービスビジネス基盤強化に向けてサービスの品質・評価・提供・改善のビジネスプロセスの向上ならびに人材育成に取り組みます。

ICTの新技术への対応ならびに新しい分野への活用

ネットワークの高度化ならびに高機能端末の動向に注視し、最新技術の応用力の向上に努めて、お客様の直面する課題、社会の抱える諸課題の解決に貢献できる新しいソリューション・サービスの開発に注力します。

プロジェクト・マネジメントのさらなる強化

ビジネスの進展はシステムの複雑化・高度化をますます加速していますので、不採算プロジェクトの発生を予防し、お客様の信頼を確保する納期・品質・コストを実現するために、プロジェクト・マネジメント・プロセスを見直し、その強化に向けて体制、手順、評価システムの再構築の諸施策に注力します。

グローバル化への対応

お客様のグローバルなバリューチェーン形成に向けたシステム連携をはじめとする要請への対応、ソリューション・サービスの提供にグローバルな諸資源を組み込むと同時にそれによる高い付加価値の創出に向けた活動を推進してビジネスの拡大に努めます。

人材育成

新しいソリューション・サービスの創出・提供には、市場・技術の変化に対応し、お客様とともに課題解決への必要な人材が不可欠でありますので、最新技術・知識を適宜習得できる研修体系ならびに仕組みの整備、情報やノウハウの共有の環境づくりなどに注力します。

4【事業等のリスク】

当社グループは、企業の社会的責任経営と企業価値経営の実現のために、E R Mの導入および定着化を目的として平成16年にリスクマネジメント部を創設し、グループ企業を含む全社的な視点から組織横断的リスク状況の監視並びに指導を通じてリスクマネジメント体制の整備・構築を支援しております。

当社グループの事業その他に関するリスクについては、投資者の判断に影響を及ぼす可能性のある主な事項は、以下のとおりです。なお、これらの事項には将来に関するものが含まれますが、当該事項は有価証券報告書提出日（平成24年6月28日）現在において当社グループが判断したものであり、事業等のリスクはこれらに限られるものではありません。

(1) 特定の取引先への依存度について

当社グループは、富士通株式会社ならびに株式会社富士通エフサスとの取引の割合が大きく、その状況は次のとおりであります。なお、当社と富士通株式会社ならびに株式会社富士通エフサスとの間には取引基本契約等が締結されており、取引関係については安定したものとなっております。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)		当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
	金額(千円)	割合(%)	金額(千円)	割合(%)
株式会社富士通エフサスへの売上高	3,303,274	18.3	3,423,355	18.2
富士通株式会社からの仕入高	4,219,006	43.5	3,584,920	40.1

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 為替相場の変動について

当社グループは、通貨変動に対するリスクヘッジとして、為替予約等により短期的な為替の変動による影響を最小限に止める努力をしておりますが、短期および中長期の予測を超えた為替変動により、当社グループの業績、財政状態に影響をおよぼす可能性があります。

(3) 退職給付債務について

当社グループの従業員退職給付費用および債務は、割引率等数値計算上で設定される前提条件に基づいて算出されております。実際の結果が前提条件と異なる場合、または前提条件が変更された場合、結果として当社グループの財政状態および経営成績の変動要因となります。当社グループでは、この影響を最小限にすべく確定拠出年金制度への一部移行等の施策を実施していますが、その影響を完全になくすことはできません。一層の割引率の低下は当社グループの財政状態および経営成績に影響をおよぼす可能性があります。

(4) セキュリティ管理について

平成17年4月に全面施行された個人情報保護法を鑑み、規程類や組織体制の整備、従業員などの教育等、情報リスク管理体制の強化に取組み、情報漏洩など実際にリスクが具体化したときにどう対処すべきかといった事故発生時における体制につきましても組織体制の構築やマニュアルの策定等により、リスクへの対処を図っておりますが、企業情報・個人情報が流出した場合には、当社グループへの社会的信頼性を損なう可能性があります。

(5) 株式等の保有について

当社グループが保有する株式等は、株式市況の動向等により時価が変動するため、当社グループの業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(6) コンプライアンスリスクについて

企業の社会的責任に対する関心の高まり、企業活動に大きな影響を及ぼす新しい法制度の制定や改正などを背景として法令のみならず企業倫理も対象とするコンプライアンスに関連したリスクが増大しつつあります。

当社グループにおけるこのようリスクに的確に対処し、コンプライアンス委員会、リスクマネジメント部を主体とする組織を通じ、体制の整備、従業員教育に努め、コンプライアンスの徹底に取り組んでおりますが、重大な法令違反や定款違反が発生した場合には、経営に甚大な影響を与える可能性があります。

(7) 法務リスクについて

個人情報保護法の施行やソフト開発プロジェクトにおける工事進行基準の適用などにより当社グループは、取引先との間で様々な契約書を締結する機会が従来と比較して飛躍的に増加しており、契約上のリスクが拡大しつつあります。当社グループは、管理部門を中心としたチェック体制を敷いており、また、専門的な法律案件については顧問弁護士の意見を取り入れておりますが、契約に伴う訴訟が発生した場合など、当社グループの経営に甚大な影響を与える可能性があります。

(8) 在庫の増加リスクについて

当社グループは、お客様に対応するための終息品の保有、取引先による電子部品の海外調達方針や長期にわたるシステム開発などにより在庫が一時的に増加することがあります。当社グループは、毎月末に在庫数量・金額を確認するとともに資金枠の設定による総量の規制、商社取引への牽制など健全な在庫管理を実施しておりますが、在庫の一時的な増加により、当社グループの業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(9) ソフトウェア開発リスクについて

当社グループは、ソフトウェア開発に関する業務を受注しております。
企画プロセスや方式設計などの開発プロセスを経て、検収・納期まで、会社の定められたルールに基づいて工程管理を実施しております。
作業現場では、お客様からの仕様変更、法令変更、様式変更などさまざまな変更・取止めなどを要求される場合があります。納期の遅延、バグなどの障害や誤入力が起こる可能性があります。
また、修復不能のシステム障害が発生した場合には、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

(10) グローバル展開リスクについて

当社グループは、主にアジア地区を対象に事業のグローバル展開を図っておりますが、対象国における政治・経済情勢の変化、政策の変更や自然災害の発生などのカントリーリスク具現化により、当社グループの業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(11) 環境規制について

当社グループは、電子デバイスおよび半導体の調達、製品リサイクルなどに関して、環境関連法令の適用を受けており、関連する費用負担や損害賠償責任が発生し、当社グループの業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(12) 大規模災害による影響について

当社グループの拠点の多くは、本社部門を含め首都圏に所在しております。首都圏直下型地震や新型インフルエンザなどの大規模な自然災害が発生した場合、甚大な被害により事業活動、業績、財政状況等に影響を及ぼす可能性があります。

(13) 経済状況について

国内外における経済環境の変化や当社グループ顧客企業の業績状況変化などにより需要の減少や価格競争激化などが発生した場合、当社グループの業績および財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(14) 内部統制リスクについて

当社は、金融商品取引法における内部統制報告制度の適用対象企業であります。内部統制システムに重大な欠陥が発見された場合、当社グループへの社会的信頼性を損なう可能性があります。

5【経営上の重要な契約等】

契約会社名	相手方の名称	国籍	契約品目	契約の内容	契約期間
ソレキア株 (当社)	富士通株式会社	日本	システム機器等	富士通株式会社のシステム機器等の販売に関するパートナー契約	期間1年 自動更新
			保守業務	富士通株式会社又は同社の指定するもののもとに設置された電算機及び関連機器の保守に関する基本契約	期間1年 自動更新
ソレキア株 (当社)	東京特殊電線株式会社	日本	電線・加工品 電子デバイス製品	東京特殊電線株式会社の取扱製品を販売することに関する基本契約	期間1年 自動更新
ソレキア株 (当社)	株式会社富士通エフサス	日本	保守業務	株式会社富士通エフサスが保守・サービス業務を当社に委託することに関する基本契約	期間1年 自動更新

6【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（平成24年6月28日）現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。

収益の認識

当社グループの売上高は、通常、注文書に基づき顧客に対して商品が検収された時点、およびサービスが提供され、検収された時点に計上されます。なお、当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる場合については、その進捗度に応じ計上されます。また、電子部品など継続的に発生する取引は、顧客に商品が出荷された時点で売上を計上しております。販売手数料は、得意先計算書に基づき、内訳を検証して計上されます。

たな卸資産

当社グループは、たな卸資産につきまして、収益性の低下および相当の期間を経過しているたな卸資産は一定額を評価損として計上しております。また、損失が見込まれる仕損品については見積り額にて受注損失引当金を計上しております。

当連結会計年度末におきましては、流通向けプリンタ機器の大口受注案件の売上による商品の減少などに伴い、たな卸資産は5億23百万円（前連結会計年度末比57.2%減）と大幅に減少しております。

投資の減損

当社グループは、良好な取引関係の維持・強化のために、特定の顧客および金融機関に対する株式を所有しております。これらの株式には市場性のある公開会社の株式と価格決定の困難である非公開会社の株式が含まれます。公開会社につきましては、決算期末前1ヶ月の時価平均で評価をしており、時価が取得価額に比べ著しく下落し、回復可能性が合理的に証明できない場合には、相当額を発生年度の損失として減損処理しております。非公開会社につきましては、これらの会社の1株当たり純資産額が、1株当たり取得価額に比べ著しく下落し、回復可能性が合理的に証明できない場合には、相当額を発生年度の損失として減損処理しております。

当連結会計年度におきましては、特別損失に投資有価証券評価損として2百万円計上しております。

繰延税金資産

当社グループは、繰延税金資産について、每期回収の可能性、将来の課税所得など検討をいたしますが、繰延税金資産の全部または一部を将来回収できないと判断をした場合、当該判断を行った期間に繰延税金資産の調整額を費用として計上します。同様に、計上金額の純額を上回る繰延税金資産を今後回収できると判断をした場合、繰延税金資産への調整により当該期間利益を増加させることとなります。

退職給付会計

当社グループの従業員退職給付費用および債務は、数理計算上で設定される前提条件に基づいて算出されております。これらの前提条件には、割引率、将来の報酬水準、退職率、直近の統計数値に基づく死亡率および年金資産の収益率などが含まれます。毎期の数理差異につきましては、前提条件の変化による影響や前提条件と実際との結果の違いの影響を発生年度の損益に含めております。

減損会計

当社グループは固定資産に対する投資の回収可能性について、事業用資産については事業所別、遊休資産については物件ごとにグルーピングを行い、減損の兆候を確認し、それぞれ正味売却価額または使用価値により測定しております。当連結会計年度におきましては、営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループ及び処分予定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に86百万円計上しております。

(2) 当連結会計年度の経営成績の分析

当連結会計年度は、東日本大震災による落ち込みからサプライチェーンの復旧に伴い持ち直しの動きなど緩やかな回復基調が見られましたが、タイの洪水の影響、円高の進行、原油価格の高騰、欧州債務問題の深刻化、海外経済の減速などに伴う輸出の伸び悩みならびに生産の停滞などにより、全体として減速感と先行き不透明な状態で推移しました。

当連結会計年度の経営成績は、半導体・電子部品の需要後退による売上減少に対して、業務プロセスの改善ならびに明確なコスト削減に直結する付加価値のある最適なソリューション、マネジメント・サービスメニューの提案などにより、パソコン、サーバ、情報機器などのハードウェアなどの大型商談などにより、売上高は188億16百万円（前連結会計年度比4.0%増）となりました。

売上高の増加、業務効率の向上、諸経費の削減などの増益要因に対して、価格競争激化や前期からの継続プロジェクトにおける仕損じによる不採算プロジェクトの発生、退職給付債務の計算に用いる割引率変更に伴う退職給付債務の積み上げなどの影響による原価率の上昇などにより、営業損失は1億44百万円（前連結会計年度は31百万円の営業利益）、経常損失は1億23百万円（前連結会計年度は45百万円の経常利益）となりました。

当期純損失は、固定資産の減損損失など特別損失の計上により、2億44百万円（前連結会計年度は49百万円の当期純利益）となりました。

(3) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループは、自己資本比率の向上を目指しておりますが、事業規模の多様化などで事業資金の需要が多く、当面は銀行からの借入で充当する方針であります。

資金の需要

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、販売に関するコンピュータ関連の商品及び電子部品の購入のほか、ソフトウェア制作費、販売費及び一般管理費などの営業費用であります。ソフトウェア制作費は制作にかかわるシステムエンジニアの人件費および外注費などで、売上原価に計上しています。また、保守業務に関わるカスタマエンジニアの人件費および外注費なども同様に売上原価に計上をしています。営業費用の主なものは人件費及び旅費交通費などの販売費用であります。

資金の源泉

当社グループの運転資金源泉のうち主なものは、売上債権の回収などの営業活動によるキャッシュ・フローと、資金の借入等の財務活動によるキャッシュ・フローであります。当連結会計年度におきましては、たな卸資産の減少などによる営業活動によるキャッシュ・フローの増加1億55百万円などがあり、固定資産の取得など設備投資に充当した結果、投資活動によるキャッシュ・フローの減少1億5百万円、配当金の支払などの財務活動によるキャッシュ・フローの減少38百万円により、現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度より11百万円増加して、37億95百万円となりました。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度において、生産能力に重要な影響を及ぼすような設備投資及び重要な設備の除却、売却はありません。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

(1) 提出会社

平成24年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額				従業員数 (人)
			土地 (千円) (面積㎡)	建物 及び 構築物 (千円)	工具、器具及 び備品 (千円)	合計 (千円)	
本社 (東京都大田区)	1・4	営業設備	546,066 (885.81)	56,192	16,685	618,944	293
東京地区 (東京都千代田区 他)	1	"	-	4,447	2,868	7,316	192
東北支店 (仙台市青葉区)	2	"	-	-	-	-	20
福島支店 (福島県福島市)	"	"	-	-	-	-	5
宇都宮支店 (栃木県宇都宮市)	"	"	-	2,512	724	3,237	8
関東支店 (埼玉県さいたま市大宮区)	"	"	-	-	-	-	16
群馬地区 (群馬県高崎市 他)	"	"	-	470	781	1,252	80
長野地区 (長野県上田市 他)	"	"	-	2,141	1,006	3,148	74
京都支店 (京都市下京区)	3	"	-	3,403	1,049	4,452	12
大阪地区 (大阪府中央区 他)	"	"	-	6,683	8,376	15,059	97
高松支店 (香川県高松市)	"	"	-	-	-	-	20
松山支店 (愛媛県松山市)	"	"	-	-	-	-	5
熱川保養所 (静岡県賀茂郡東伊豆町)	4	-	6,714 (545.89)	31,009	-	37,723	-
その他	"	-	7,501 (8,352.15)	-	-	7,501	-

- (注) 1. セグメントの名称の 1は首都圏、 2は東日本、 3は西日本、 4はその他の部門であります。
2. 帳簿価額には消費税等を含めておりません。
3. その他の内訳は次のとおりであります。

所在地	土地 (㎡)
北海道夕張郡栗山町	7,029.28
長野県東御市	1,322.87

4. 上記の他、主要なリース設備として、以下のものがあります。

セグメントの名称	設備の内容	年間リース料 (千円)
1・2・3・4	営業設備 (リース)	1,725

(2) 国内子会社

平成24年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額	従業員数 (人)
				工具、器具 及び備品 (千円)	
ソレキア・ブラッツ(株)	本社 (東京都大田区)	4	営業設備	84	15

(注) セグメントの名称の 1は首都圏、 2は東日本、 3は西日本、 4はその他の部門であります。

(3) 在外子会社

平成24年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額	従業員数 (人)
				工具、器具 及び備品 (千円)	
SOLEKIA SINGAPORE PTE.LTD.	本社 (シンガポール共和国)	4	営業設備	126	3

(注) セグメントの名称の 1は首都圏、 2は東日本、 3は西日本、 4はその他の部門であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

平成24年3月31日現在において重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	21,240,000
計	21,240,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (平成24年3月31日)	提出日現在発行数 (株) (平成24年6月28日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,169,610	10,169,610	大阪証券取引所 JASDAQ市場 (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	10,169,610	10,169,610	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成12年5月19日	924,510	10,169,610	-	2,293,007	-	2,359,610

(注) 株式分割(1:1.1)によるものであります。

(6)【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)							単元未満株 式の状況 (株)	
	政府及び地 方公共団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人その他		
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	9	13	54	5	-	1,945	2,026	-
所有株式数 (単元)	-	785	42	1,744	13	-	7,306	9,890	279,610
所有株式数の 割合(%)	-	7.94	0.42	17.63	0.13	-	73.88	100	-

(注) 1. 自己株式722,128株は「個人その他」に722単元及び「単元未満株式の状況」に128株を含めて記載しております。

2. 上記「その他の法人」及び「単元未満株式の状況」の欄には、証券保管振替機構名義の株式をそれぞれ2単元及び720株含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
東京特殊電線株式会社	東京都港区新橋六丁目1番11号	1,257	12.37
ソレキア従業員持株会	東京都大田区西蒲田八丁目3番3号	943	9.28
小林 貞子	神奈川県川崎市中原区	303	2.99
小林 義和	神奈川県横浜市都筑区	272	2.68
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町二丁目2番1号	235	2.32
富士通株式会社	神奈川県川崎市中原区上小田中四丁目1番1号	235	2.32
小林 英之	神奈川県川崎市中原区	229	2.26
竹田 和平	愛知県名古屋市天白区	200	1.97
東特塗料株式会社	東京都墨田区亀沢四丁目5番6号	161	1.59
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町一丁目13番1号	153	1.50
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区内幸町一丁目1番5号	133	1.31
株式会社横浜銀行	神奈川県横浜市西区みなとみらい三丁目1番1号	133	1.31
計	-	4,259	41.89

(注) 上記のほか、自己株式が722千株あります。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 722,000	-	単元株式数 1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,168,000	9,168	同上
単元未満株式	普通株式 279,610	-	1単元(1,000株) 未満の株式
発行済株式総数	10,169,610	-	-
総株主の議決権	-	9,168	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数2個が含まれております。

【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
ソレキア株式会社	東京都大田区西蒲田 八丁目3番3号	722,000	-	722,000	7.10
計	-	722,000	-	722,000	7.10

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	1,818	232,460
当期間における取得自己株式	906	115,393

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (単元未満株式の売渡請求による売渡)	-	-	-	-
保有自己株式数	722,128	-	723,034	-

(注) 1. 当期間における処理自己株式には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の売渡による株式は含まれておりません。

2. 当期間における保有自己株式には、平成24年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取り及び売渡による株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

当社は、株主の皆様への安定的な利益還元を行うとともに、財務体質の強化と将来の事業展開に備えるため、内部留保の充実に努めることを基本方針としております。

当社は、毎年度1回期末に剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

剰余金の配当の決定機関は株主総会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記方針に基づき当事業年度は1株当たり4円の配当を実施することを決定いたしました。

内部留保につきましては、今後予想される経営環境の変化に対応すべく、競争力の維持・強化や積極的な事業展開に備えるとともに、経営基盤強化施策や設備投資などに有効に活用してまいりたいと考えております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
平成24年6月28日 定時株主総会決議	37,789	4

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第50期	第51期	第52期	第53期	第54期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	265	198	171	168	180
最低(円)	160	100	120	97	112

(注) 最高・最低株価は、平成22年4月1日より大阪証券取引所JASDAQにおけるものであり、平成22年10月12日より大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。それ以前はジャスダック証券取引所におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	11月	12月	平成24年1月	2月	3月
最高(円)	135	133	126	131	138	142
最低(円)	123	117	112	117	118	126

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	経営戦略グループ 担当兼経理財務 グループ担当 兼海外マーケ ティング担当兼 ソレキア・アカ デミー担当	小林 義和	昭和24年6月30日生	昭和48年7月 当社入社 昭和58年11月 当社東京電子第一営業部長 昭和59年11月 当社取締役就任 昭和62年11月 当社常務取締役就任 昭和63年11月 当社専務取締役就任 平成4年6月 当社代表取締役副社長就任 平成6年6月 当社代表取締役社長就任(現任) 平成14年1月 コバデン・プロダクツ株式会社(現、ソレキア・プラッツ株式会社)代表取締役会長就任(現任) 平成24年6月 当社経営戦略グループ担当兼経理財務グループ担当兼海外マーケティング担当兼ソレキア・アカデミー担当(現任)	(注)5	272
取締役 副社長	スマートシティ 推進プロジェクト 室長	小林 英之	昭和26年11月4日生	昭和51年4月 富士通株式会社入社 平成元年12月 同社東支社システム統括部第一システム部プロジェクト課長 平成6年12月 当社入社システム事業部長 平成7年6月 当社取締役就任 平成11年6月 当社常務取締役就任 平成19年6月 当社専務取締役就任 平成23年6月 当社取締役副社長就任(現任) 平成24年6月 当社スマートシティ推進プロジェクト室長(現任)	(注)5	229
常務取締役	情報セキュリ ティ担当兼コー ポレートシステ ム部担当	福嶋 喜八	昭和24年3月31日生	昭和43年5月 当社入社 平成11年4月 当社西日本システムサービス統括部長兼インターネットビジネス部長 平成12年6月 当社取締役就任 平成15年6月 当社常務取締役就任(現任) 平成21年6月 ソレキア・プラッツ株式会社代表取締役社長就任 平成23年4月 当社情報セキュリティ担当兼コーポレートシステム部担当(現任)	(注)5	34

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常務取締役	営業・システムソリューション部門統括兼購買・サプライマネジメント部担当兼マーケティング・マネジメント部担当兼テクノロジー・プロダクツ事業部担当兼ネットワークビジネス事業部担当兼アウトソーシングサービス事業部担当兼マネージドサービスビジネス推進室長兼社会ソリューション営業グループ長	中辻 義照	昭和27年1月20日生	昭和49年4月 富士通株式会社入社 平成16年4月 同社西日本営業本部神戸支社長 平成19年4月 同社関東甲信越営業本部長 平成20年6月 同社九州支社長 平成22年5月 当社入社 平成22年6月 当社取締役就任 平成23年4月 当社ネットワークビジネス事業部担当兼マネージドサービスビジネス推進室長兼システム営業グループ長 平成23年6月 当社常務取締役就任(現任) 平成24年6月 当社営業・システムソリューション部門統括兼購買・サプライマネジメント部担当兼マーケティング・マネジメント部担当兼テクノロジー・プロダクツ事業部担当兼ネットワークビジネス事業部担当兼アウトソーシングサービス事業部担当兼マネージドサービスビジネス推進室長兼社会ソリューション営業グループ長(現任)	(注)5	10
常務取締役	インフラサービス事業グループ長兼ヘルスケアソリューション事業部長	岩田 勝夫	昭和25年9月26日生	昭和48年4月 当社入社 平成9年4月 当社関西フィールドサービス統括部長 平成18年4月 当社西日本支社長 平成18年6月 当社取締役就任 平成20年4月 当社西日本支社長兼四国支社長 平成24年6月 当社常務取締役就任(現任) 当社インフラサービス事業グループ長兼ヘルスケアソリューション事業部長(現任)	(注)5	20
取締役		立川 直臣	昭和26年1月27日生	昭和50年4月 古河電気工業株式会社入社 平成17年6月 同社執行役員人事総務部長 平成19年6月 同社執行役員常務人事総務部長 平成20年6月 同社取締役兼執行役員常務CSO 平成21年1月 同社取締役兼執行役員常務CSO兼経営企画室長 平成22年4月 同社取締役兼執行役員常務CSO 平成22年6月 東京特殊電線株式会社代表取締役社長就任(現任) 平成23年6月 当社取締役就任(現任)	(注)5	-
取締役	経営企画室担当兼R&Dセンター長	原田 英徳	昭和29年4月5日生	昭和63年11月 当社入社 平成14年4月 当社TN第二営業統括部長 平成14年6月 当社取締役就任(現任) 平成16年8月 KOBADEN SINGAPORE PTE LTD (現、SOLEKIA SINGAPORE PTE. LTD.) Managing Director 平成22年4月 当社東日本支社長兼システムサービス企画室長 平成24年6月 当社経営企画室担当兼R&Dセンター長(現任)	(注)5	24
取締役	管理グループ担当兼監査部担当兼総務部長	針生 貞裕	昭和28年4月28日生	昭和52年4月 富士通株式会社入社 平成15年6月 同社長野工場長 平成22年6月 株式会社F U J I T S Uユニバーシティ取締役就任 平成24年6月 当社入社 当社取締役就任(現任) 当社管理グループ担当兼監査部担当兼総務部長(現任)	(注)5	-

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		石川 幸雄	昭和23年4月25日生	昭和44年3月 当社入社 平成11年4月 当社首都圏統括営業部長 平成17年4月 当社オフィスネットワークサービス統括部副担当 平成17年6月 当社常勤監査役就任(現任)	(注)6	23
常勤監査役		河野 官	昭和24年9月29日生	昭和45年3月 当社入社 平成9年4月 当社信越フィールドサービス統括部長 平成17年4月 当社長野支社長兼長野サポート&サービス統括部長 平成22年4月 当社東日本支社副支社長兼長野サポート&サービス統括部長 平成22年6月 当社常勤監査役就任(現任)	(注)6	22
監査役		川野 佳範	昭和18年3月26日生	昭和40年10月 ピート・マーウィック・ミツチエル会計事務所入所 昭和44年5月 公認会計士西谷・遠藤・白幡共同事務所入所 昭和44年9月 公認会計士登録 昭和48年6月 監査法人サンワ事務所(現、有限責任監査法人トーマツ)設立 平成12年7月 三優監査法人入所 代表社員 平成15年6月 当社監査役就任(現任)	(注)6	-
監査役		吉平 宗一	昭和24年1月30日生	昭和47年4月 株式会社第一勧業銀行入行 平成8年3月 同行溝ノ口支店長 平成14年4月 株式会社みずほ銀行志村支店長 平成15年4月 東曹産業株式会社常務取締役就任 平成17年5月 同社専務取締役就任 平成23年6月 当社監査役就任(現任)	(注)6	-
計						636

- (注) 1. 取締役 立川直臣は、会社法第2条第15号に定める社外取締役であります。
2. 監査役 川野佳範及び監査役 吉平宗一は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
3. 取締役副社長 小林英之は、代表取締役社長 小林義和の実弟であります。
4. 取締役 原田英徳は、代表取締役社長 小林義和の実妹の配偶者であります。
5. 平成24年6月28日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
6. 平成23年6月29日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

6【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

ソレキアグループは、お客様を原点に、常に変化を先取りして新たな価値を創造し、豊かな社会実現への貢献を使命とし、グループ全体の企業価値の持続的な向上を目指します。その実現に向けて、お客様満足を充足する商品・サービスの提供、各ステークホルダーとの良好な関係の構築など長期的な視点からの成長と発展が重要と考えております。

一方、企業を取り巻く経営環境の変化する速度はますます速くなりつつあることから、迅速かつ確かな意思決定、適切なリスク管理ならびに効率的な業務執行など企業競争力強化の様々な諸施策の実行が要請されています。そのためにコーポレート・ガバナンスの向上により、経営の透明性、迅速性、効率性、多様性ならびに社会的責任の実現を追求してまいります。

コーポレート・ガバナンスに関する施策の実施状況

(a) 会社の機関の状況

当社は、急速に変化する経営環境への迅速な対応を目指し、取締役会の監督機能の強化ならびに業務執行の機動性、有効性や効率性を図るために経営会議、業務執行会議の機関の設置、執行役員制度の導入より経営責任と権限の明確化に努めるとともに、社外役員の任用により経営の透明性、効率性の向上を図る環境を整備しております。

なお、取締役の選任については、経営責任の明確化ならびに経営体質の強化のために、取締役の任期は1年としています。

当社の機関は以下のとおりであります。

(イ) 取締役会

経営の監督機関として取締役会は、業務執行機関である経営会議、業務執行会議を監督し、経営上の重要事項の意思決定ならびに業務執行にかかわる重要事項を決定します。取締役会は、社外取締役の任用により経営監督の強化を図るとともに、監査役の出席により透明性、効率性、健全性の維持に努めております。

取締役会は、月1回の定例取締役会のほか、必要に応じて臨時取締役会を適宜開催して経営の監督を遂行しております。

(ロ) 経営会議

経営会議は、原則月3回以上開催し、経営に関する方針や戦略、事業計画、重要な経営執行事項などの議論、決定を行います。経営会議に付議された事項のうち、経営上の重要事項は取締役会で決定しております。

(ハ) 業務執行会議

業務執行会議は、経営者ならびに主要な事業責任者から構成され、事業計画などの業務執行状況に関する事項の実現性や進捗度合、直面する現実の課題、経済・市場・技術などの経営環境の変化についての議論、分析、情報共有により一連の業務プロセスの迅速化、効率化を推進しております。

(ニ) 監査役会

監査役会は、経営に対する監査機能を発揮するため、2名の常勤監査役、2名の社外監査役の4名から構成されています。

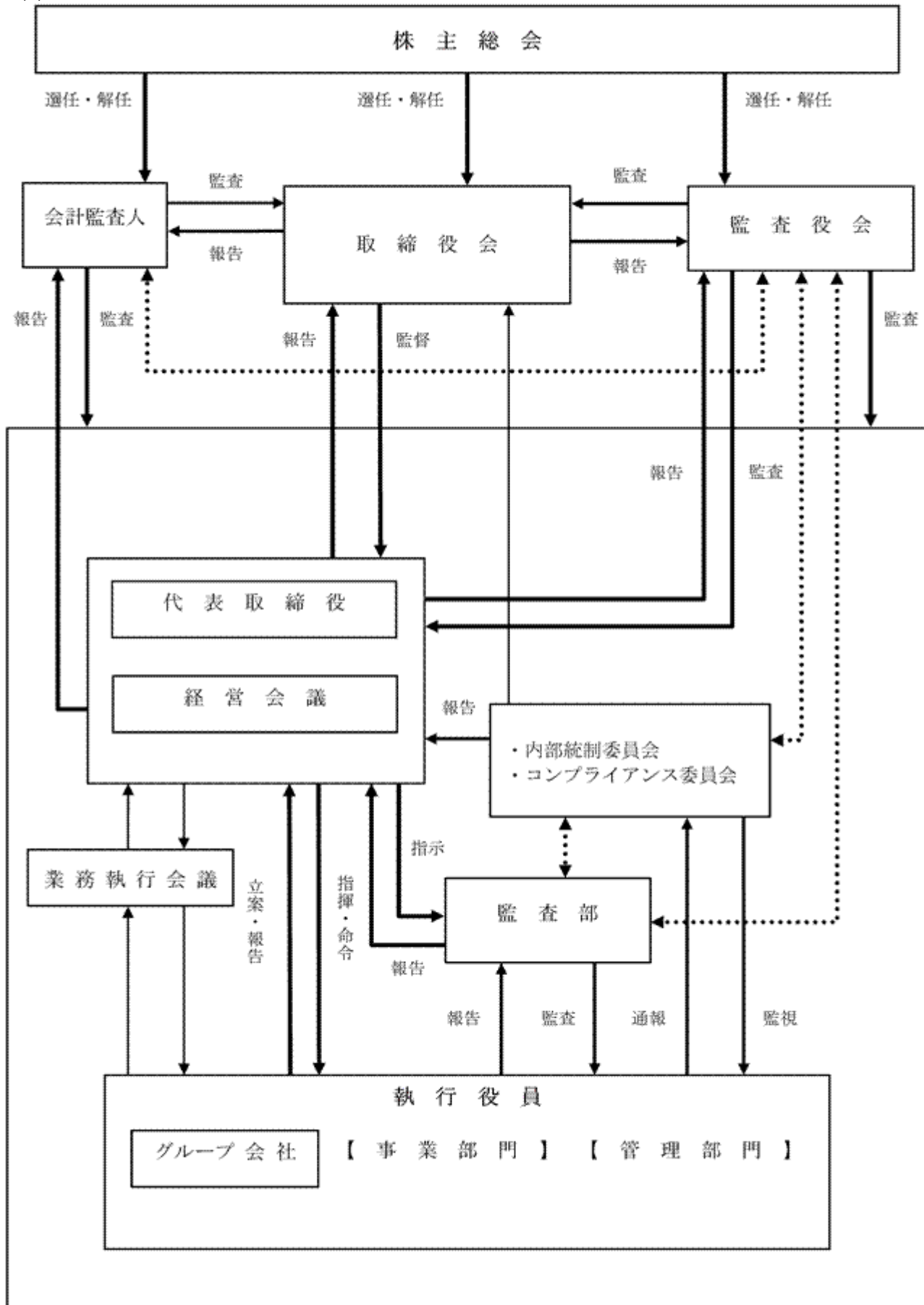
監査役は、取締役会その他重要な会議に出席するほか、代表取締役との意見交換、定期的な取締役等からの業務執行状況の聴取、内部監査部門との密接な情報交換などにより、業務執行状況の適時的確な把握と監視に努めています。また、コンプライアンスの状況や内部統制システムの整備状況の点検・確認を通じて取締役の職務執行の監査のほか、会計監査人とも定期的な意見交換を行い、会計監査における緊密な連携を図っております。また、当社は財務および会計に関する専門的な知見を有する監査役を選任しております。

(ホ) ガバナンス体制選択の理由

コーポレート・ガバナンス体制においては、社会・経済環境の変化、グローバルな環境変化に伴い、会社の目的達成に最適な仕組みを構築することを経営上の重要な課題と認識しており、コーポレート・ガバナンス体制の向上に継続的に取り組んでまいります。

当社が現状のようなコーポレート・ガバナンスの体制を採用しているのは、独立性を保持し、法律や財務会計などの専門知識を有する社外監査役を含む監査役が会計監査人・内部監査部門との緊密な連携を通じて行なう監査と、経営に対する豊富な経験・見識などを有する社外取締役を含む取締役会における経営上の重要事項の決定ならびに経営責任の明確化により、ガバナンスの枠組みが構成されることによって、経営の透明性、健全性が確保されていると考えております。更に、経営会議、業務執行会議ならびに各種委員会の設置、執行役員制度の採用により、経営の効率化を推進しております。

(b) 会社の機関・内部統制の関係図



(c) 内部統制システムの整備の状況

内部統制システムの確立のために、すべての経営者、従業員等が国内外の法令の遵守はもとより、倫理に則った行動の指針となる「ソレキアグループ行動指針」を平成16年4月に制定し、コンプライアンス委員会によって、コンプライアンス体制の構築、維持、向上を図っております。

また平成22年6月18日開催の取締役会において、当社グループの内部統制システムを見直し、経営の透明性、効率性ならびに社会的責任の具現化に向けて更なる整備を図るために「内部統制システム構築の基本方針」の内容の一部修正を決議いたしました。

当社は、企業経営を取り巻く社会など経営環境の変化に応じて適宜見直し、改善を図り、会社の業務の適法性、合理性、正確性を確保するとともに資産の保全を図るものであります。

「内部統制システム構築の基本方針」は以下のとおりであります。

(イ) 取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

- () 経営者、従業員等は法令、定款の遵守および倫理に基づき誠実で公正な行動をすることを根幹とし、これを『ソレキアグループ行動指針』に定める。
- () 経営者、各組織の責任者は、従業員等に対して研修の実施などにより『ソレキアグループ行動指針』を周知徹底し、コンプライアンス意識の向上を図り、グループ全体のコンプライアンスの企業風土の醸成に取り組む。
- () コンプライアンス担当責任者を取締役から選任し、担当責任者を委員長とするコンプライアンス委員会を設置し、組織横断的にコンプライアンス体制の構築、維持を図る。コンプライアンス委員会は、コンプライアンスの状況を取締役会、監査役に定期的に報告する。
- () 経営者は、従業員等からの法令ならびに社内諸規則違反などのコンプライアンスの問題や疑問について、内部通報制度〔コンプライアンス（企業倫理）ホットライン〕を通して、情報の早期把握および解決に取り組む。なお、通報者は通報したことにより不利益な取り扱いを受けないことを保証する。

(ロ) 取締役の職務の執行にかかわる情報の保存および管理に関する体制

- () 経営者の職務執行にかかわる情報は、『文書取扱規程』に定めるところにより、文書または電磁的媒体に記録し、適切に保存および管理を行う。
- () 経営者は、職務執行を確認するために、『文書取扱規程』により必要とする文書を常時閲覧できるものとし、各文書の保管責任者は、経営者、監査役の要請に応じていつでも閲覧可能であるように体制整備を図る。

(ハ) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- () 企業価値の向上、持続的な企業活動等を阻害するおそれのあるリスクに関する情報を一元的かつ網羅的に収集・評価して、重要なリスクを特定し、その重要性に応じて諸施策を講じるとともに、その進捗度合を点検、評価して継続的な改善活動を実施する。
- () リスクに関しては『リスク管理規程』を制定して、リスク管理の全体最適を図るため、組織横断的なリスクマネジメントを統括する組織を設置するとともに、グループ全体のリスクマネジメント体制を整備する。
- () 経営者、各組織の責任者は、業務遂行上想定されるリスクに対して、未然防止対策の策定によりリスクを予防・回避・軽減させ、損失を最小化する活動をする。経営者は、損失を伴うリスクを常に点検・評価して重要なリスクについては取締役会に報告する。
- () 市場、品質、情報等のリスクならびにコンプライアンスについては、経営者、各組織の責任者が必要に応じて規程・規則の制定、マニュアルの作成、研修の実施、活動の点検・評価を行う。
- () 内部監査部門は、事業遂行上のリスク管理の有効性、適正性などを監査して、その結果を経営会議、監査役に適宜報告する。
- () 損失を伴うリスクが発生した場合は、対策本部等を設置し、迅速な対応により損害の拡大を防止し、これを最小限に止める。

(ニ) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

- () 経営者は、迅速な意思決定を図るとともに、経営方針・事業計画等を基に経営目標を明確化し、各組織の段階において方針・計画の具体化を図り効率的かつ継続的な業務執行を確保する。
- () 取締役会の監督機能の強化ならびに業務執行の機動性、有効性及び効率性を図るため、業務執行機関として経営会議を設置し、経営に関する方針、経営戦略、事業計画、業務執行上の重要な事項を議論、決定するとともに、その内容を取締役に報告する。取締役会は業務執行機関の経営会議を監督し、重要事項の意思決定ならびに業務執行にかかわる重要な事項を決定する。
- () 担当分野の業務を権限と責任の明確化により迅速な業務執行を図るため、執行役員制度を導入する。適正かつ効率的な職務の遂行を確保するために、社内規程により各組織の責任者の権限と責任を明確にする。
- () 業務の効率化および内部統制の有効性を推進するため、グループ全体の情報通信システムの推進を統括する組織を設置し、全体システムの最適化を図る。

- (ホ) 当該株式会社ならびにその親会社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- () 経営者は、グループ会社の独自性を尊重しつつも、当社の経営方針・理念、『ソレキアグループ行動指針』などの基本方針を共有し、グループ会社に対してグループ全体の効率性、適正性、適法性に関する業務執行体制の整備のために必要な支援ならびに指導を実施する。
 - () グループ会社は、事業を管理推進する部門との間で随時情報交換を行い、適正かつ効率性を確認する。
 - () 監査役は、グループ会社の取締役会、監査役との意見交換を行い、監査の適正を図る。
 - () 内部監査部門は、グループ会社の内部監査部門と連携し、グループ全体の内部監査を定期的を実施し、その結果を定期的に経営会議に報告するとともに、グループ会社の取締役会、監査役に報告する。グループ会社の重要な事項については、当社の取締役会、監査役に報告する。
- (ヘ) 監査役職務を補助すべき従業員に関する事項および当該従業員の取締役からの独立性に関する事項
- () 監査役監査の実効性を高め、監査業務を円滑に実施するために、監査役から要請がある場合、監査役職務を補助する従業員を配置する。
 - () 監査役の要請により配置した従業員の人事に関する事項は、監査役との協議を要するものとする。
- (ト) 監査役への報告に関する体制
- () 経営者および従業員等は、監査役の要請に応じて、定期的に、或いは随時に事業の運営や課題等の業務執行の状況について報告を行う。
 - () 経営者および従業員等は、重要な法令および定款違反ならびに不正行為の事実、または会社に著しい損害を及ぼす事実が発生、または発生するおそれがあるときは、発見次第直ちに監査役に報告する。
- (チ) 監査役監査の実効性を確保するための体制
- () 経営者は、監査役が取締役会、経営会議、その他重要な事項を決定する会議に出席する機会を提供する。また監査役はその関係文書等を閲覧できる。
 - () 監査役は、代表取締役、会計監査人と定期的な意見交換を行ない、効果的な監査業務の遂行を図る。
 - () 内部監査部門は、監査役との間において内部監査計画等の協議を行い、その監査結果について密接な情報交換および連携を行う。また、内部監査部門は社外監査役、社外取締役、と定期的に情報交換を行い、監査業務の実効性を図る。
- (リ) 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方ならびに体制
- () 当社およびグループ会社は、社会の秩序・安全ならびに企業の健全な活動に脅威を与える反社会的勢力に対して、その圧力に屈することなく、毅然とした態度で臨むものとし、これらの勢力からの要求を断固拒否し、一切の関係を持たないことを基本方針とする。
 - () 反社会的勢力への対応を迅速に行うため、対応統括部門を中心に、社外専門機関と日常より緊密に連携する。
 - () 対応統括部門への外部情報を含む関係情報の集約、グループ内の定期的な啓発活動、反社会的勢力排除のための組織的対応の周知徹底等の体制を整備する。

(d) 内部監査および監査役監査の状況

当社は監査部を設け、7名専任で業務の効率性・正当性を確保するため、「内部監査規程」に基づき業務全般に関して、法令、定款、社内諸規程の遵守の状況、業務執行の手続きおよび妥当性について定期的に内部監査を実施し、経営会議、業務執行会議および監査役に対してその結果を適宜報告することとなっております。

監査役は、「監査役会規程」および「監査役監査基準」により、取締役職務執行の監査を実施し、必要あると認めるときは取締役に対し助言または勧告することとなっております。常勤監査役2名は、取締役会に限らず社内の重要な会議等に出席し、多角的な視点から取締役の業務執行を監視するとともに、法令、定款の遵守状況について監査しております。社外監査役2名のうち1名は、公認会計士の資格を有しており、財務および会計に関する幅広い見識を活かし、当社の経営全般に対して指導および監査を行っております。もう1名は、金融分野における豊富な知識・経験と、他社での取締役としての実績を活かし、当社の経営全般に対して指導および監査を行っております。

また監査部と監査役は、許容される範囲で、適時情報を交換して、監査業務の効率と質の向上を図っております。

会計監査人との連携につきましては、有限責任監査法人トーマツが監査の結果を踏まえ、監査役に会計監査の概要を報告および説明しております。また定期的な会議を開催し、意見および情報交換を行い、効率的な監査業務の遂行を図っております。

(e) 会計監査の状況

会計監査については有限責任監査法人トーマツと契約しており、定期的な監査のほか、会計上の課題について随時確認を行い会計処理の適正性に努めております。

(業務を執行した公認会計士)

指定有限責任社員 業務執行社員 松村 浩司

指定有限責任社員 業務執行社員 坂本 一朗

継続監査年数につきましては、7年以内であるため記載を省略しております。

(監査業務に係る補助者の構成)

公認会計士2名、その他6名の計8名となっております。

社外役員に関する事項

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

(a) 会社と会社の社外取締役および社外監査役の人的関係、資本関係または取引関係その他の利害関係の概要

社外取締役立川直臣氏は、当社の法人主要株主であります東京特殊電線株式会社の代表取締役社長であり、同社とは商品仕入等の営業取引がありますが、その他の利害関係はありません。社外監査役川野佳範氏、吉平宗一氏の両名については、当社との人的関係および資本的關係など利害関係に該当する項目はありません。

(b) 社外取締役および社外監査役の選任理由

社外取締役立川直臣氏は、経営者としての幅広い見識と豊富な経験を当社の経営に反映していただくとの見地から平成24年6月28日開催の第54期定時株主総会において当社社外取締役に再任され、就任しております。社外監査役川野佳範氏は、公認会計士の資格を有しており、財務および会計に関する幅広い見識を活かして、当社の経営全般に対して指導および監査を行っていただくとの見地から平成23年6月29日開催の第53期定時株主総会において当社社外監査役に再任され、就任しております。社外監査役吉平宗一氏は、金融分野における豊富な知識・経験と、他社での取締役としての実績を活かして、当社の経営全般に対して指導および監査を行っていただくとの見地から、平成23年6月29日開催の第53期定時株主総会において当社社外監査役に選任され、就任しております。

(c) 当事業年度における取締役会および監査役会における出席ならびに発言状況

社外取締役につきましては、立川直臣氏は平成23年6月29日の就任以降に11回開催された当社取締役会について、9回出席し、経営者としての幅広い見識と豊富な経験に基づいて取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための助言・提言を行いました。

社外監査役につきましては、当事業年度に15回開催された当社取締役会について、川野佳範氏は15回、吉平宗一氏は平成23年6月29日の就任以降に11回開催された当社取締役会について11回、それぞれ出席し、また、当事業年度に6回開催された当社監査役会について、川野佳範氏は6回、吉平宗一氏は平成23年6月29日の就任以降に5回開催された当社監査役会について5回、それぞれ出席し、川野佳範氏は公認会計士としての専門的見地から、吉平宗一氏は金融分野における豊富な知識・経験と他社での取締役としての実績を活かした総合的な見地から適宜必要な発言を行いました。

(d) 社外取締役および社外監査役の機能及び役割

社外取締役は、一般株主の利益保護に配慮し、経営に対する豊富な経験・見識を活かした監督および助言・提言等を行っていただくとの観点から、取締役会の意思決定および業務執行の適正性・有効性・効率性を確保する機能・役割を担っております。

また、社外監査役は、一般株主の利益保護に配慮し、専門知識ならびに経営に対する豊富な経験・見識を活かした監査および助言・提言等を行っていただくとの観点から、取締役会の意思決定および業務執行の適法性・適正性を確保する機能・役割を担っております。

(e) 社外取締役または社外監査役の独立性に関する基準・方針

当社は、経営理念、経営の基本方針に基づき、業務執行の妥当性、経営の監督機能の一層の向上のために、社外役員を任用しております。

社外取締役、あるいは社外監査役には、経営に関する豊かな経験と深い知見を有し、経営者ならびに特定の利害関係から独立した立場から忌憚のない意見を述べていただき、業務執行の意思決定を行うことが、経営の健全性と効率性に資するとの基本的な考えに立脚しております。

なお、社外監査役川野佳範氏は、当社の株式を保有しておらず、経営者ならびに特定の利害関係から独立した立場であり、また公認会計士としての専門的見地を有することから、上記における十分な独立性が確保されていると判断し、株式会社大阪証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

役員報酬等

(a) 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	124,401	124,401	-	-	9
監査役 (社外監査役を除く。)	26,880	26,880	-	-	2
社外役員	12,000	12,000	-	-	5

- (注) 1. 取締役の支給額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。
2. 役員ごとの報酬等の総額につきましては、1億円以上を支給している役員はありませんので記載を省略しております。
3. 取締役の報酬限度額は、平成2年11月29日開催の第32期定時株主総会決議において年額200,000千円以内(ただし、使用人分給与は含まない)と決議いただいております。
4. 監査役の報酬限度額は、平成12年6月29日開催の第42期定時株主総会決議において年額40,000千円以内と決議いただいております。
5. 取締役の報酬等の総額には、平成23年6月29日開催の第53期定時株主総会終結の時をもって退任した取締役2名を含んでおります。
6. 監査役の報酬等の総額には、平成23年6月29日開催の第53期定時株主総会終結の時をもって退任した監査役1名を含んでおります。
7. 上記のほか、平成19年6月28日開催の第49期定時株主総会における役員退職慰労金制度廃止に伴う打切り支給の決議に基づく役員退職慰労金として、退任取締役2名に対し総額7,804千円を支給しております。

(b) 使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

総額(千円)	対象となる役員の員数(人)	内容
26,480	3	使用人としての給与および賞与であります。

(c) 役員の報酬等の額またはその算定方法の決定に関する方針の内容および決定方法

役員報酬の決定に際しては、長期にわたる持続的な成長を図るため、変化する経営環境に対応して、事業の充実ならびに企業価値の向上に対する報奨として適切に機能することを目指します。また、報酬額の水準については、同業他社の水準を考慮しながら、定額報酬部分と、業績ならびに各役員の貢献度による業績連動報酬部分を算定しております。

責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役および社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償限度額は、金480万円または会社法第425条第1項に定める最低責任限度額のいずれか高い額となります。

取締役の定数

当社の取締役は15名以内とする旨定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨定款に定めております。

自己株式の取得

当社は、自己の株式の取得について、経済情勢の変化に対応して財務政策等の経営諸施策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法165条第2項の規定に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

株式の保有状況

(a) 保有目的が純投資目的以外の投資株式

(イ) 銘柄数：34

(ロ) 貸借対照表計上額の合計額：316,727千円

(b) 保有目的が純投資目的以外の目的の上場投資株式

前事業年度

特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
富士通株式会社	96,236	47,155	取引・協力関係の維持・強化
株式会社東芝	63,857	27,969	取引関係の維持・強化
グローリー株式会社	12,740	22,765	取引関係の維持・強化
ダイヤモンド電機株式会社	39,492	17,376	取引関係の維持・強化
株式会社横浜銀行	42,870	17,276	取引関係の維持・強化
東京特殊電線株式会社	194,312	15,739	取引・協力関係の維持・強化
日置電機株式会社	9,700	15,355	取引関係の維持・強化
株式会社りそなホールディングス	37,150	15,231	取引関係の維持・強化
仙波糖化工業株式会社	38,000	11,514	取引関係の維持・強化
株式会社小野測器	40,908	9,736	取引関係の維持・強化
株式会社みずほフィナンシャルグループ	43,040	6,542	取引関係の維持・強化
富士電機ホールディングス株式会社	25,203	6,351	取引関係の維持・強化
長野日本無線株式会社	38,890	4,977	取引関係の維持・強化
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	11,970	4,919	取引関係の維持・強化
丸三証券株式会社	11,025	4,531	取引関係の維持・強化
日本無線株式会社	21,010	4,433	取引関係の維持・強化
第一生命保険株式会社	29	3,942	取引関係の維持・強化
沖電気工業株式会社	48,646	3,210	取引関係の維持・強化
オリジン電気株式会社	6,465	3,167	取引関係の維持・強化
株式会社中央倉庫	5,000	3,120	取引関係の維持・強化
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	800	2,232	取引関係の維持・強化
みずほ証券株式会社	7,594	1,746	取引関係の維持・強化
株式会社ヨコオ	2,000	1,218	取引関係の維持・強化
株式会社T&Dホールディングス	385	833	取引関係の維持・強化
みずほインベスターズ証券株式会社	3,406	275	取引関係の維持・強化
株式会社CSK	287	73	取引関係の維持・強化

(注) 富士電機ホールディングス株式会社は、平成23年4月1日より、富士電機株式会社となりました。

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
富士通株式会社	96,236	42,247	取引・協力関係の維持・強化
株式会社東芝	67,438	24,345	取引関係の維持・強化
グローリー株式会社	13,537	23,568	取引関係の維持・強化
東京特殊電線株式会社	196,881	19,294	取引・協力関係の維持・強化
株式会社横浜銀行	42,870	17,448	取引関係の維持・強化
ダイヤモンド電機株式会社	43,145	16,912	取引関係の維持・強化
株式会社りそなホールディングス	37,150	14,748	取引関係の維持・強化
日置電機株式会社	9,700	14,346	取引関係の維持・強化
株式会社小野測器	43,441	13,510	取引関係の維持・強化
仙波糖化工業株式会社	38,000	11,628	取引関係の維持・強化
株式会社みずほフィナンシャルグループ	56,186	7,809	取引関係の維持・強化
沖電気工業株式会社	56,777	5,734	取引関係の維持・強化
富士電機株式会社	26,931	5,655	取引関係の維持・強化
長野日本無線株式会社	43,658	5,326	取引関係の維持・強化
株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ	11,970	5,075	取引関係の維持・強化
日本無線株式会社	24,167	4,784	取引関係の維持・強化
丸三証券株式会社	11,025	4,266	取引関係の維持・強化
第一生命保険株式会社	29	3,214	取引関係の維持・強化
株式会社中央倉庫	5,000	3,210	取引関係の維持・強化
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	800	2,236	取引関係の維持・強化
オリジン電気株式会社	6,465	2,172	取引関係の維持・強化
株式会社ヨコオ	2,000	972	取引関係の維持・強化
株式会社T&Dホールディングス	770	755	取引関係の維持・強化
S C S K 株式会社	68	85	取引関係の維持・強化

(c) 保有目的が純投資目的の投資株式
該当事項はありません。

(d) 保有目的を変更した投資株式
該当事項はありません。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	30,000	-	27,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	30,000	-	27,000	-

【その他重要な報酬の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

(前連結会計年度)

該当事項はありません。

(当連結会計年度)

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

該当事項はありませんが、監査日数等を勘案した上で決定しております。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、情報収集等を行っております。

1【連結財務諸表等】
 (1)【連結財務諸表】
 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,784,449	3,795,941
受取手形及び売掛金	4,447,537	2 4,816,674
商品	1,072,038	410,893
仕掛品	151,058	112,271
繰延税金資産	180,167	163,430
その他	87,789	113,544
貸倒引当金	8,201	3,596
流動資産合計	9,714,839	9,409,159
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1 531,608	1 405,738
減価償却累計額	382,927	298,878
建物及び構築物(純額)	148,681	106,860
工具、器具及び備品	395,587	315,824
減価償却累計額	326,149	284,132
工具、器具及び備品(純額)	69,438	31,691
土地	1 560,282	1 560,282
有形固定資産合計	778,402	698,833
無形固定資産	93,632	115,062
投資その他の資産		
投資有価証券	320,902	319,727
敷金及び保証金	571,326	549,461
繰延税金資産	538,879	575,377
その他	52,248	53,110
貸倒引当金	3,926	3,919
投資その他の資産合計	1,479,429	1,493,757
固定資産合計	2,351,464	2,307,654
資産合計	12,066,303	11,716,813
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,761,321	2,285,003
短期借入金	1 980,000	1 1,080,000
未払法人税等	75,093	51,487
賞与引当金	305,200	299,300
受注損失引当金	40,636	12,574
その他	498,537	806,205
流動負債合計	4,660,788	4,534,571
固定負債		
長期借入金	1 100,000	-
退職給付引当金	1,296,297	1,467,337
役員退職慰労引当金	132,203	124,398
資産除去債務	57,649	58,671
その他	512	-
固定負債合計	1,586,662	1,650,407
負債合計	6,247,451	6,184,979

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,293,007	2,293,007
資本剰余金	2,359,610	2,359,610
利益剰余金	1,288,196	1,005,504
自己株式	136,972	137,205
株主資本合計	5,803,840	5,520,916
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,011	10,917
その他の包括利益累計額合計	15,011	10,917
純資産合計	5,818,852	5,531,834
負債純資産合計	12,066,303	11,716,813

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高	18,085,759	18,816,606
売上原価	1, 2 14,919,394	1, 2 15,687,006
売上総利益	3,166,365	3,129,599
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	1,706,632	1,737,522
賞与引当金繰入額	113,100	108,951
退職給付引当金繰入額	103,636	217,674
福利厚生費	337,034	342,999
その他	873,994	866,911
販売費及び一般管理費合計	3,134,397	3,274,059
営業利益又は営業損失()	31,968	144,459
営業外収益		
受取利息	4,731	3,781
受取配当金	5,143	7,554
受取手数料	4,887	4,724
助成金収入	10,822	18,663
その他	2,987	3,891
営業外収益合計	28,572	38,614
営業外費用		
支払利息	11,380	9,888
支払保証料	2,737	2,024
支払補償費	-	5,136
その他	997	406
営業外費用合計	15,116	17,456
経常利益又は経常損失()	45,425	123,301
特別利益		
投資有価証券売却益	2,300	-
投資有価証券受贈益	4,141	-
退職給付制度終了益	201,402	-
特別利益合計	207,844	-
特別損失		
減損損失	3 19,822	3 86,818
投資有価証券評価損	19,187	2,304
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	36,607	-
特別損失合計	75,618	89,123
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	177,651	212,424
法人税、住民税及び事業税	58,360	47,360
法人税等調整額	70,112	14,890
法人税等合計	128,472	32,469
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失()	49,178	244,894
当期純利益又は当期純損失()	49,178	244,894

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益又は少数株主損益調整前当期純損失()	49,178	244,894
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	16,765	4,093
その他の包括利益合計	16,765	4,093
包括利益 (内訳)	32,413	248,988
親会社株主に係る包括利益	32,413	248,988

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	2,293,007	2,293,007
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,293,007	2,293,007
資本剰余金		
当期首残高	2,359,610	2,359,610
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,359,610	2,359,610
利益剰余金		
当期首残高	1,267,589	1,288,196
当期変動額		
剰余金の配当	28,343	37,797
当期純利益又は当期純損失()	49,178	244,894
自己株式の処分	229	-
当期変動額合計	20,606	282,691
当期末残高	1,288,196	1,005,504
自己株式		
当期首残高	137,445	136,972
当期変動額		
自己株式の取得	463	232
自己株式の処分	936	-
当期変動額合計	472	232
当期末残高	136,972	137,205
株主資本合計		
当期首残高	5,782,761	5,803,840
当期変動額		
剰余金の配当	28,343	37,797
当期純利益又は当期純損失()	49,178	244,894
自己株式の取得	463	232
自己株式の処分	707	-
当期変動額合計	21,078	282,924
当期末残高	5,803,840	5,520,916

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	31,776	15,011
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	16,765	4,093
当期変動額合計	16,765	4,093
当期末残高	15,011	10,917
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	31,776	15,011
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	16,765	4,093
当期変動額合計	16,765	4,093
当期末残高	15,011	10,917
純資産合計		
当期首残高	5,814,538	5,818,852
当期変動額		
剰余金の配当	28,343	37,797
当期純利益又は当期純損失（ ）	49,178	244,894
自己株式の取得	463	232
自己株式の処分	707	-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	16,765	4,093
当期変動額合計	4,313	287,017
当期末残高	5,818,852	5,531,834

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失()	177,651	212,424
減価償却費	71,945	61,394
減損損失	19,822	86,818
貸倒引当金の増減額(は減少)	302	4,612
賞与引当金の増減額(は減少)	6,200	5,900
受注損失引当金の増減額(は減少)	40,636	28,061
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	6,160	7,804
退職給付引当金の増減額(は減少)	190,746	171,039
受取利息及び受取配当金	9,875	11,336
支払利息	11,380	9,888
投資有価証券売却損益(は益)	2,300	-
投資有価証券評価損益(は益)	19,187	2,304
投資有価証券受贈益	4,060	-
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	36,607	-
売上債権の増減額(は増加)	145,508	369,137
たな卸資産の増減額(は増加)	611,482	699,933
仕入債務の増減額(は減少)	255,232	476,318
未払消費税等の増減額(は減少)	26,031	122,256
その他	21,224	171,125
小計	99,805	209,165
利息及び配当金の受取額	6,238	7,831
利息の支払額	11,266	10,088
営業保証金の受取額	228,900	20,458
営業保証金の支払額	5,029	-
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	12,711	71,503
営業活動によるキャッシュ・フロー	106,326	155,863
投資活動によるキャッシュ・フロー		
投資有価証券の取得による支出	6,820	9,598
投資有価証券の売却による収入	10,709	-
有形固定資産の取得による支出	64,531	27,965
ソフトウェアの取得による支出	28,829	69,237
敷金及び保証金の差入による支出	6,913	1,587
敷金及び保証金の回収による収入	22,783	4,946
その他の支出	2,392	1,663
その他の収入	110	55
投資活動によるキャッシュ・フロー	75,882	105,050
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の純増減額(は増加)	243	232
配当金の支払額	28,343	37,797
財務活動によるキャッシュ・フロー	28,099	38,029
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,028	1,290
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	314	11,492
現金及び現金同等物の期首残高	3,784,134	3,784,449
現金及び現金同等物の期末残高	3,784,449	3,795,941

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項
 - (1) 連結子会社の数 2社
主要な連結子会社の名称
ソレキア・プラッツ(株)
SOLEKIA SINGAPORE PTE.LTD.
 - (2) 主要な非連結子会社の名称等
該当事項はありません。
 2. 持分法の適用に関する事項
 - (1) 持分法適用の非連結子会社数
該当事項はありません。
 - (2) 持分法適用の関連会社数
該当事項はありません。
 - (3) 持分法を適用していない関連会社（(株)オーエスユーテクノロジー）については、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等に及ぼす影響が軽微であるため、持分法の適用範囲から除外しております。なお、当該関連会社は、当連結会計年度において、清算が終了しております。
 3. 連結子会社の事業年度等に関する事項
連結子会社のうちSOLEKIA SINGAPORE PTE.LTD.の決算日は、平成23年12月31日であります。
連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、平成24年1月1日から連結決算日平成24年3月31日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。
 4. 会計処理基準に関する事項
 - (1) 重要な資産の評価基準及び評価方法
有価証券
 その他有価証券
 時価のあるもの
 決算日前1ヶ月の市場価格等の平均に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
 時価のないもの
 総平均法による原価法
デリバティブ 時価法
たな卸資産
 商品 移動平均法による原価法
 仕掛品 個別法による原価法
 なお、貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。
 - (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法
有形固定資産（リース資産を除く）
 親会社及び国内連結子会社は定率法を採用しております。ただし平成10年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）については定額法を採用しております。主な耐用年数は建物50年、工具、器具及び備品5年です。また、在外連結子会社は定額法を採用しております。
無形固定資産（リース資産を除く）
 市場販売目的のソフトウェア
 見込販売数量を基準として販売数量に応じた割合に基づく償却額と、販売可能期間（3年）に基づく償却額のいずれが多い金額をもって償却する方法によっております。
 自社利用目的のソフトウェア
 社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。
 その他の無形固定資産
 定額法によっております。
- リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産はリース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与の支払に備えるため、将来の支給見込額のうち当連結会計年度の負担額を計上しております。

役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支払に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。

なお、当連結会計年度末の残高はありません。

受注損失引当金

受注契約に係る将来の損失に備えるため、当連結会計年度末における受注契約に係る損失見込額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

なお、数理計算上の差異については、その発生年度に一括損益処理しております。

役員退職慰労引当金

親会社は第49期定時株主総会（平成19年6月28日開催）をもって役員退職慰労金制度を廃止いたしました。同日以前に在任した役員については、その日以前の在任期間に対して内規の効力を有するため、当該内規に基づく支給見込額を役員退職慰労引当金として計上しております。従って、同日以降の新規計上は行っておりません。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

受注制作のソフトウェアに係る収益の認識基準

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる場合については工事進行基準を適用し、その他の場合については工事完成基準を適用しております。

なお、工事進行基準を適用する場合の当連結会計年度末における進捗度の見積りは、原価比例法を用いております。

(5) 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

(6) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。また、為替予約が付されている外貨建金銭債権債務については振当処理を、特例処理の要件を満たす金利スワップについては特例処理をそれぞれ採用しております。

なお、当連結会計年度末の残高はありません。

ヘッジ手段とヘッジ対象

- ・ヘッジ手段...為替予約取引及び金利スワップ取引
- ・ヘッジ対象...外貨建債権債務及び借入金利

ヘッジ方針

為替予約は外貨建金銭債権債務の決済において必要とされる範囲内で、金利スワップは資金調達に係る金利の範囲内でそれぞれ行っております。

ヘッジ有効性評価の方法

為替予約については、ヘッジ対象と同一通貨建・同一金額・同一期日のものに限定しているため、その後の為替相場の変動による相関関係は確保されております。また金利スワップについては、ヘッジ手段の想定元本とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、かつ、ヘッジ開始時及びその後も継続してキャッシュ・フローの変動を完全に相殺するものと想定することができます。従って、それぞれのヘッジの有効性の判定は省略しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は手許現金、随時引き出し可能な預金及び取得日から3ヶ月以内に満期日の到来する流動性の高い、容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なリスクしか負わない短期的な投資であります。

(8) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
建物及び構築物	55,587千円	53,073千円
土地	84,336	84,336
計	139,923	137,409

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
短期借入金	450,000千円	550,000千円
長期借入金	100,000	-
計	550,000	550,000

(注) 根抵当権によって担保されている債務については、期末残高又は極度額のいずれか少ない金額で記載しております。

2 連結会計年度末日満期手形

連結会計年度末日満期手形の会計処理については、当連結会計年度の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。当連結会計年度末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
受取手形	- 千円	17,568千円

(連結損益計算書関係)

1 売上原価に含まれている収益性の低下による仕掛品の簿価切下額

前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
15,039千円	14,358千円

2 売上原価に含まれている受注損失引当金繰入額

前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
40,636千円	12,574千円

3 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度(自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)

場所	用途	種類
宮城県仙台市	事業用資産	建物及び構築物、工具、器具及び備品等
福島県福島市	事業用資産	建物及び構築物、工具、器具及び備品等
香川県高松市	事業用資産	建物及び構築物、工具、器具及び備品等
愛媛県松山市	事業用資産	建物及び構築物、工具、器具及び備品等
東京都大田区	事業用資産	工具、器具及び備品等
埼玉県さいたま市	事業用資産	工具、器具及び備品等
長野県上田市	事業用資産	工具、器具及び備品等

当社グループは、事業用資産については事業所別、遊休資産については物件毎にグルーピングを行っております。当連結会計年度において、上記資産グループの営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に19,822千円計上しております。

その内訳は、建物及び構築物2,097千円、工具、器具及び備品12,190千円、その他5,533千円であります。資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しております。使用価値については将来キャッシュ・フローを3.0%で割り引いて算定しております。

当連結会計年度(自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)

場所	用途	種類
群馬県高崎市	事業用資産	建物及び構築物、工具、器具及び備品等
大阪府大阪市	事業用資産	建物及び構築物、工具、器具及び備品等
東京都大田区	事業用資産	建物及び構築物、工具、器具及び備品等
埼玉県さいたま市	事業用資産	建物及び構築物、工具、器具及び備品
東京都千代田区	事業用資産	工具、器具及び備品等
愛媛県松山市	事業用資産	工具、器具及び備品
香川県高松市	事業用資産	工具、器具及び備品
長野県上田市	事業用資産	工具、器具及び備品
栃木県宇都宮市	事業用資産	工具、器具及び備品

当社グループは、事業用資産については事業所別、遊休資産については物件毎にグルーピングを行っております。当連結会計年度において、上記資産グループの営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループおよび処分予定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に86,818千円計上しております。

その内訳は、建物及び構築物29,766千円、工具、器具及び備品25,378千円、ソフトウェア9,284千円、その他1,388千円および解体費用21,000千円であります。資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しております。使用価値については将来キャッシュ・フローを3.1%で割り引いて算定しております。なお、処分予定資産については使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローが見込めないため、回収可能価額は無いものとしております。

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金:

当期発生額	9,441千円
組替調整額	476
税効果調整前	8,965
税効果額	4,871
その他有価証券評価差額金	4,093
その他の包括利益合計	4,093

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数(千株)	当連結会計年度増 加株式数(千株)	当連結会計年度減 少株式数(千株)	当連結会計年度末 株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	10,169	-	-	10,169
合計	10,169	-	-	10,169
自己株式				
普通株式(注)	721	3	4	720
合計	721	3	4	720

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取による増加であり、株式数の減少は、単元未満株式の売渡による減少であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払金額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当 額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	28,343	3	平成22年3月31日	平成22年6月28日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	37,797	利益剰余金	4	平成23年3月31日	平成23年6月30日

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度期 首株式数（千株）	当連結会計年度増 加株式数（千株）	当連結会計年度減 少株式数（千株）	当連結会計年度末 株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	10,169	-	-	10,169
合計	10,169	-	-	10,169
自己株式				
普通株式（注）	720	1	-	722
合計	720	1	-	722

（注）普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取による増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払金額

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当 額（円）	基準日	効力発生日
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	37,797	4	平成23年3月31日	平成23年6月30日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

（決議）	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり配 当額（円）	基準日	効力発生日
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	37,789	利益剰余金	4	平成24年3月31日	平成24年6月29日

（連結キャッシュ・フロー計算書関係）

1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 （自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）	当連結会計年度 （自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）
現金及び預金勘定	3,784,449千円	3,795,941千円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	3,784,449	3,795,941

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引
所有権移転外ファイナンス・リース取引
リース資産の内容
有形固定資産

事業における生産設備(車両運搬具、工具、器具及び備品)であります。
リース資産の減価償却の方法
連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前連結会計年度(平成23年3月31日)			
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	減損損失累計額相当額	期末残高相当額
車両運搬具	12,012	9,774	2,237	-
工具、器具及び備品	8,385	8,385	-	-
合計	20,397	18,159	2,237	-

(単位：千円)

	当連結会計年度(平成24年3月31日)			
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	減損損失累計額相当額	期末残高相当額
車両運搬具	8,978	8,466	512	-

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	1,694	505
1年超	505	-
合計	2,199	505
リース資産減損勘定の残高	2,237	512

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	2,224	1,725
リース資産減損勘定の取崩額	1,350	1,725
減価償却費相当額	2,000	1,617
支払利息相当額	66	31
減損損失	689	-

(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額
リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

2. オペレーティング・リース取引
オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1年内	3,319	3,319
1年超	5,816	2,497
合計	9,135	5,816

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループの資金運用は、安全性を第一とし、短期的な預金を中心とした金融資産に限定しております。資金調達は、資金使途、期間、調達コスト等を勘案し主に銀行借入を行っております。また、デリバティブ取引については、為替変動リスクに対する為替予約取引及び金利変動リスクに対する金利スワップ取引に限定して行い、投機目的には利用しない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びリスク並びに管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、資金関係規程及び営業管理関係規程に従い与信管理および期日管理を行っております。また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、同じ外貨建ての買掛金の残高の範囲内にあるものを除き、原則として先物為替予約を利用してヘッジする方針としております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクおよび発行体の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、業務上の関係を有する企業の株式については、定期的に時価や取引先企業の財政状況等を把握し、取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

敷金及び保証金は、主に営業保証金や事務所敷金であり、預入先の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、信用度の高い預入先と契約を結ぶこととしているため、信用リスクは僅少であります。

営業債務である支払手形及び買掛金は、ほぼ全てが5ヶ月以内の支払期日となっております。一部外貨建ての営業債務は、為替の変動リスクに晒されておりますが、同じ外貨建ての売掛金の残高の範囲内にあるものを除き、原則として先物為替予約を利用してヘッジする方針としております。

未払法人税等は、法人税、住民税及び事業税に係る債務であり、ほぼ全てが2ヶ月以内に納付期限が到来するものであります。

短期借入金及び長期借入金は、主に運転資金や安定的な支払能力を確保するためのものであります。これらは、主に固定金利であります。変動金利による借入を行った場合には、金利変動リスクを回避するため、金利スワップ取引をヘッジ手段として利用する方針としております。

営業債務、未払法人税等及び借入金は、流動性リスクに晒されております。当該リスクに関しては、資金繰計画を毎月作成・更新することで管理しております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジを目的とした先物為替予約取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジを目的とした金利スワップ取引であります。なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項に関する注記「4. 会計処理基準に関する事項(6) 重要なヘッジ会計の方法」をご参照ください。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価額がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。「(注)2.」をご参照ください。

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	3,784,449	3,784,449	-
(2) 受取手形及び売掛金 貸倒引当金()	4,447,537 2,323		
	4,445,213	4,445,213	-
(3) 投資有価証券	251,695	251,695	-
(4) 敷金及び保証金	334,435	292,905	41,530
資産計	8,815,794	8,774,263	41,530
(1) 支払手形及び買掛金	2,761,321	2,761,321	-
(2) 短期借入金	980,000	980,000	-
(3) 未払法人税等	75,093	75,093	-
(4) 長期借入金	100,000	100,216	216
負債計	3,916,414	3,916,631	216
デリバティブ取引	-	-	-

() 受取手形及び売掛金に個別計上している貸倒引当金を控除しております。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	3,795,941	3,795,941	-
(2) 受取手形及び売掛金 貸倒引当金()	4,816,674 1,627		
	4,815,047	4,815,047	-
(3) 投資有価証券	249,348	249,348	-
(4) 敷金及び保証金	330,654	301,323	29,330
資産計	9,190,992	9,161,661	29,330
(1) 支払手形及び買掛金	2,285,003	2,285,003	-
(2) 短期借入金	1,080,000	1,080,000	-
(3) 未払法人税等	51,487	51,487	-
負債計	3,416,491	3,416,491	-
デリバティブ取引	-	-	-

() 受取手形及び売掛金に個別計上している貸倒引当金を控除しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

なお、受取手形及び売掛金については、信用リスクを個別に把握することが極めて困難なため、貸倒引当金を信用リスクとみなし、時価を算定しております。

(3) 投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっております。

(4) 敷金及び保証金

敷金及び保証金の時価の算定は、一定の期間ごとに分類し、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標による利率で割り引いた現在価値により算定しております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金並びに(3) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

なお、当連結会計年度においては、全額が1年以内返済予定の長期借入金であり、短期借入金に含めて表示しておりますが、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

注記事項「デリバティブ取引関係」をご参照下さい。

なお、当連結会計年度に該当事項はありません。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
非上場株式	69,206	70,378
営業保証金	236,891	218,806

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」及び「(4) 敷金及び保証金」には含めておりません。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	3,784,449	-	-	-
受取手形及び売掛金	4,447,537	-	-	-
敷金及び保証金	16,588	72,937	32,875	212,034
合計	8,248,574	72,937	32,875	212,034

なお、営業保証金236,891千円については、返還期日を明確に把握できないため、償還予定額には含めておりません。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超5年以内 (千円)	5年超10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	3,795,941	-	-	-
受取手形及び売掛金	4,816,674	-	-	-
敷金及び保証金	27,867	59,428	38,741	204,617
合計	8,640,483	59,428	38,741	204,617

なお、営業保証金218,806千円については、返還期日を明確に把握できないため、償還予定額には含めておりません。

4. 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(平成23年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	141,244	97,721	43,522
	(2) 債券			
	国債・地方債	-	-	-
	等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	141,244	97,721	43,522
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	110,451	128,701	18,250
	(2) 債券			
	国債・地方債	-	-	-
	等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	110,451	128,701	18,250
合計		251,695	226,423	25,271

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 69,206千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(平成24年3月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(千円)	取得原価(千円)	差額(千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	171,188	132,654	38,533
	(2) 債券			
	国債・地方債	-	-	-
	等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	171,188	132,654	38,533
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	78,160	100,387	22,227
	(2) 債券			
	国債・地方債	-	-	-
	等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	-	-	-
	小計	78,160	100,387	22,227
合計		249,348	233,042	16,306

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額 70,378千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

種類	売却額(千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
(1) 株式	40	7	-
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	10,668	2,292	-
合計	10,709	2,300	-

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

3. 減損処理を行った有価証券

有価証券について、前連結会計年度に19,187千円(その他有価証券で時価のある株式19,187千円)、当連結会計年度に2,304千円(その他有価証券で時価のある株式476千円、その他有価証券で時価のない株式1,827千円)減損処理を行っております。

なお、減損処理にあたっては、その他有価証券で時価のあるものについては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には、原則として減損処理を行い、期末より直近1年間において時価が取得原価に比べ30%以上50%未満下落する状態が継続し、時価が取得原価まで回復する合理的な証明が出来ない場合にも、減損処理を行っております。

また、その他有価証券で時価のないものについては、実質価額が取得原価に比べ50%以上下落した場合には、原則として減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、適格退職年金制度を採用しておりましたが、平成23年1月1日付けで、適格退職年金制度を廃止し、確定給付企業年金と確定拠出年金で構成する退職給付制度へ移行しております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
(1) 退職給付債務(千円)	2,506,901	2,871,760
(2) 年金資産(千円)	1,210,603	1,404,423
(3) 退職給付引当金(1)+(2)(千円)	1,296,297	1,467,337

(注) 確定拠出年金制度への一部移行に伴う影響額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)
(1) 退職給付債務の減少(千円)	1,051,864
(2) 年金資産の減少(千円)	850,462
(3) 退職給付引当金の減少(1)+(2)(千円)	201,402

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
(1) 勤務費用(千円)	161,046	117,221
(2) 利息費用(千円)	69,598	55,151
(3) 期待運用収益(千円)	17,240	12,106
(4) 数理計算上の差異の費用処理額(千円)	44,514	237,125
(5) 確定拠出年金掛金(千円)	14,845	61,510
(6) 退職給付費用(千円) (1)+(2)+(3)+(4)+(5))	272,764	458,903
(7) 確定拠出年金制度への一部移行に伴う利益(千円)	201,402	-

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1) 退職給付見込額の期間配分方法
期間定額基準

(2) 割引率

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
2.2%	1.476%

(3) 期待運用収益率

前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
1.0%	1.0%

(4) 数理計算上の差異の処理年数
発生時一括処理

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
賞与引当金	123,911千円	113,763千円
商品評価損	5,012	5,139
未払事業税	8,941	7,821
未払費用	14,971	14,729
受注損失引当金	16,498	4,779
その他	14,787	19,637
繰延税金資産 小計	184,121	165,870
評価性引当額	3,954	2,440
繰延税金資産 合計	180,167	163,430
繰延税金資産(固定)		
退職給付引当金	526,296	534,844
投資有価証券評価損	44,779	39,417
繰越欠損金	31,398	34,720
役員退職慰労引当金	53,674	45,139
貸倒引当金	973	88
その他	64,173	75,454
繰延税金資産 小計	721,295	729,664
評価性引当額	165,110	143,867
繰延税金資産 合計	556,184	585,796
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	10,260	5,388
その他	7,045	5,029
繰延税金負債 合計	17,305	10,418
繰延税金資産の純額	538,879	575,377

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.6%	40.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	9.3	8.2
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.6	0.7
評価性引当額	9.5	0.1
住民税均等割	13.7	11.4
実効税率変更による増減	-	35.6
その他	0.2	1.5
税効果会計適用後の法人税等の負担率	72.3	15.3

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.6%から平成24年4月1日に開始する連結会計年度から平成26年4月1日に開始する連結会計年度に解消が見込まれる一時差異については38.01%に、平成27年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については、35.64%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は74,938千円減少し、法人税等調整額が75,688千円、その他有価証券評価差額金が749千円、それぞれ増加しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

賃借事務所の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から15年と見積り、割引率は1.885%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
期首残高(注)	57,090千円	57,649千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	1,002	-
時の経過による調整額	1,003	1,021
資産除去債務の履行による減少額	1,447	-
期末残高	57,649	58,671

(注) 前連結会計年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、情報・通信システム関連商品の販売、ソフトウェアの開発およびこれらに係るサービスの提供という事業を営んでおり、主に国内を市場とし、首都圏、東日本、西日本の各地域ごとに商談を推進し、商品の販売、開発、サービスの提供という事業活動を展開しております。

当社は、システム・ソリューションならびにサービス開発部門、全国戦略推進支援部門の2つの部門を核に地域別販売のセグメントを構成しており、「首都圏」、「東日本」および「西日本」の3つを報告セグメントとしております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。
セグメント間の内部取引は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	首都圏	東日本	西日本	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,226,657	3,997,624	3,485,818	17,710,099	375,659	18,085,759
セグメント間の内部売上高又は振替高	144,739	2,329	1,200	148,269	234,566	382,835
計	10,371,396	3,999,953	3,487,018	17,858,368	610,226	18,468,594
セグメント利益又は損失()	30,181	30,884	156,390	217,457	3,549	213,907
その他の項目						
減価償却費	38,399	11,558	13,279	63,238	8,707	71,945

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社を含んでおります。

2. 資産については、経営の意思決定上、各セグメントに配分していないため記載しておりません。

3. 報告セグメントに対して特定の資産は配分しておりませんが、減価償却費等の関連費用は配分しております。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

（単位：千円）

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	首都圏	東日本	西日本	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,965,506	4,019,454	3,626,677	18,611,638	204,967	18,816,606
セグメント間の内部売上高又は振替高	16,923	3,563	1,200	21,686	242,263	263,949
計	10,982,429	4,023,017	3,627,877	18,633,325	447,230	19,080,555
セグメント利益又は損失()	218,977	35,215	199,543	15,782	34,214	18,432
その他の項目						
減価償却費	33,205	8,678	11,046	52,930	8,464	61,394

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社を含んでおります。
2. 資産については、経営の意思決定上、各セグメントに配分していないため記載しておりません。
3. 報告セグメントに対して特定の資産は配分しておりませんが、減価償却費等の関連費用は配分しております。

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	17,858,368	18,633,325
「その他」の区分の売上高	610,226	447,230
セグメント間取引消去	382,835	263,949
連結財務諸表の売上高	18,085,759	18,816,606

（単位：千円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	217,457	15,782
「その他」の区分の利益	3,549	34,214
セグメント間取引消去	2,227	499
全社費用(注)	184,166	126,526
連結財務諸表の営業利益又は営業損失()	31,968	144,459

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

（単位：千円）

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	63,238	52,930	8,707	8,464	-	-	71,945	61,394

【関連情報】

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	コンポーネント・デバイス	情報関連機器	システムソリューション	フィールドサービス	合計
外部顧客への売上高	3,151,829	7,751,263	3,118,448	4,064,218	18,085,759

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社富士通エフサス	3,303,274	首都圏、東日本、西日本

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

1．製品及びサービスごとの情報

（単位：千円）

	コンポーネント・デバイス	情報関連機器	システムソリューション	フィールドサービス	合計
外部顧客への売上高	2,484,857	9,052,523	3,170,725	4,108,500	18,816,606

2．地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3．主要な顧客ごとの情報

（単位：千円）

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
株式会社富士通エフサス	3,423,355	首都圏、東日本、西日本

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

（単位：千円）

	首都圏	東日本	西日本	その他	全社・消去	合計
減損損失	3,295	12,171	4,355	-	-	19,822

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

（単位：千円）

	首都圏	東日本	西日本	その他	全社・消去	合計
減損損失	37,518	4,035	2,553	-	42,711	86,818

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1. 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主（会社等の場合に限る。）等

前連結会計年度（自平成22年4月1日 至平成23年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
主要株主	東京特殊電線(株)	東京都港区	6,146,796	電線およびケーブル製造・販売	（所有） 直接 0.4 （被所有） 直接 13.7	商品の売買 役員の兼任	商品の販売	25,056	売掛金	4,281
							商品の購入	797,913	買掛金	125,536

（注）1. 取引金額には消費税等を含んでおりませんが、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引ないし取引条件の決定方針等

商品の売買については、価格その他の取引条件は、市場価格並びに総原価を参考にして、その都度交渉の上、決定しております。

当連結会計年度（自平成23年4月1日 至平成24年3月31日）

種類	会社等の名称又は氏名	所在地	資本金又は出資金（千円）	事業の内容又は職業	議決権等の所有（被所有）割合（％）	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額（千円）	科目	期末残高（千円）
主要株主	東京特殊電線(株)	東京都港区	1,925,000	電線およびケーブル製造・販売	（所有） 直接 0.3 （被所有） 直接 13.7	商品の売買 役員の兼任	商品の販売	18,597	売掛金	1,951
							商品の購入	800,331	買掛金	182,345

（注）1. 取引金額には消費税等を含んでおりませんが、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引ないし取引条件の決定方針等

商品の売買については、価格その他の取引条件は、市場価格並びに総原価を参考にして、その都度交渉の上、決定しております。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1 株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
1株当たり純資産額	615.80円	585.54円
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額()	5.20円	25.92円

(注) 1. 当連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。なお、前連結会計年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
当期純利益金額又は当期純損失金額() (千円)	49,178	244,894
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額又は当期純損失金額()(千円)	49,178	244,894
期中平均株式数(株)	9,449,030	9,448,265

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	980,000	980,000	0.8	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	100,000	1.3	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	100,000	-	-	-
合計	1,080,000	1,080,000	-	-

(注) 平均利率は当期末の借入利率及び借入残高をもとに算定しております。

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	4,493,575	9,228,685	13,155,085	18,816,606
税金等調整前四半期(当期)純損失金額()(千円)	169,698	171,224	262,399	212,424
四半期(当期)純損失金額()(千円)	110,726	128,229	265,588	244,894
1株当たり四半期(当期)純損失金額()(円)	11.72	13.57	28.11	25.92

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()(円)	11.72	1.85	14.54	2.19

2【財務諸表等】
(1)【財務諸表】
【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,729,431	3,726,151
受取手形	296,345	259,995 ³
売掛金	4,133,410 ²	4,531,531 ²
商品	1,068,362	404,596
仕掛品	151,191	112,777
前払費用	46,923	47,910
繰延税金資産	180,167	163,430
その他	71,456	136,352
貸倒引当金	8,253	3,617
流動資産合計	9,669,034	9,379,128
固定資産		
有形固定資産		
建物	524,985 ¹	399,136 ¹
減価償却累計額	376,442	292,349
建物(純額)	148,542	106,787
構築物	6,623	6,602
減価償却累計額	6,484	6,529
構築物(純額)	138	73
工具、器具及び備品	389,684	309,853
減価償却累計額	320,505	278,360
工具、器具及び備品(純額)	69,179	31,493
土地	560,282 ¹	560,282 ¹
有形固定資産合計	778,143	698,635
無形固定資産		
ソフトウェア	31,212	22,846
ソフトウェア仮勘定	45,086	76,502
電話加入権	16,905	15,537
その他	479	218
無形固定資産合計	93,684	115,104
投資その他の資産		
投資有価証券	320,902	319,727
関係会社長期貸付金	170,000	170,000
破産更生債権等	3,856	3,909
長期前払費用	2,182	2,024
繰延税金資産	538,863	575,372
敷金及び保証金	571,326	549,461
その他	46,208	47,176
貸倒引当金	122,926	158,419
投資その他の資産合計	1,530,413	1,509,252
固定資産合計	2,402,241	2,322,992
資産合計	12,071,276	11,702,121

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,755,312	2,262,747
短期借入金	980,000	980,000
1年内返済予定の長期借入金	-	100,000
未払金	204,918	257,030
未払費用	197,213	198,991
未払法人税等	74,733	51,128
未払消費税等	-	120,220
前受金	74,293	162,609
預り金	37,903	80,865
賞与引当金	298,900	293,000
受注損失引当金	40,636	12,574
その他	1,725	512
流動負債合計	4,665,636	4,519,679
固定負債		
長期借入金	100,000	-
退職給付引当金	1,296,297	1,467,337
役員退職慰労引当金	132,203	124,398
資産除去債務	57,649	58,671
その他	512	-
固定負債合計	1,586,662	1,650,407
負債合計	6,252,299	6,170,086
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,293,007	2,293,007
資本剰余金		
資本準備金	2,359,610	2,359,610
資本剰余金合計	2,359,610	2,359,610
利益剰余金		
利益準備金	220,200	220,200
その他利益剰余金		
別途積立金	352,801	352,801
繰越利益剰余金	715,318	432,702
利益剰余金合計	1,288,320	1,005,704
自己株式	136,972	137,205
株主資本合計	5,803,965	5,521,116
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	15,011	10,917
評価・換算差額等合計	15,011	10,917
純資産合計	5,818,977	5,532,034
負債純資産合計	12,071,276	11,702,121

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
売上高		
商品売上高	10,626,504	11,256,134
機器及び工事売上高	7,097,835	7,213,222
手数料収入	135,694	163,967
売上高合計	17,860,034	18,633,325
売上原価		
商品売上原価		
商品期首たな卸高	498,997	1,068,362
当期商品仕入高	9,584,725	8,827,329
合計	10,083,723	9,895,691
商品期末たな卸高	1,068,362	404,596
商品他勘定振替高	₁ 22,437	₁ 20,799
商品売上原価	8,992,923	9,470,295
機器及び工事売上原価	5,751,000	6,056,026
売上原価合計	_{2, 3} 14,743,923	_{2, 3} 15,526,321
売上総利益	3,116,111	3,107,003
販売費及び一般管理費		
販売諸掛	22,439	15,254
役員報酬	168,246	163,281
給料及び手当	1,480,769	1,516,305
従業員賞与	193,860	185,797
賞与引当金繰入額	112,015	107,651
退職給付引当金繰入額	102,956	216,903
福利厚生費	334,054	338,262
旅費及び交通費	104,353	110,876
減価償却費	27,360	33,127
賃借料	137,036	136,872
貸倒引当金繰入額	1,126	4,382
その他	398,602	397,796
販売費及び一般管理費合計	3,082,820	3,217,747
営業利益又は営業損失()	33,290	110,744
営業外収益		
受取利息	4,721	3,775
受取配当金	5,143	7,554
受取手数料	4,887	4,724
助成金収入	10,822	18,663
雑収入	5,929	5,386
営業外収益合計	31,504	40,103

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
営業外費用		
支払利息	11,380	9,888
支払保証料	2,737	2,024
支払補償費	-	5,136
雑損失	997	406
営業外費用合計	15,116	17,456
経常利益又は経常損失()	49,678	88,097
特別利益		
投資有価証券売却益	2,300	-
投資有価証券受贈益	4,141	-
退職給付制度終了益	201,402	-
特別利益合計	207,844	-
特別損失		
貸倒引当金繰入額	⁵ 5,000	⁵ 35,500
減損損失	⁴ 19,822	⁴ 86,818
投資有価証券評価損	19,187	2,304
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	36,607	-
特別損失合計	80,618	124,623
税引前当期純利益又は税引前当期純損失()	176,904	212,720
法人税、住民税及び事業税	58,000	47,000
法人税等調整額	69,642	14,900
法人税等合計	127,642	32,099
当期純利益又は当期純損失()	49,262	244,819

【機器及び工事売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)		当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
完成ソフトウェア原価	1				
1. 労務費		1,278,309	53.2	1,189,576	49.3
2. 外注費		597,602	24.9	706,889	29.3
3. その他の経費		527,412	21.9	516,876	21.4
計		2,403,324	100.0	2,413,343	100.0
期首仕掛品		103,062		151,191	
計		2,506,386		2,564,534	
期末仕掛品		151,191		112,777	
他勘定振替高		25,560		996	
差引		2,329,634		2,450,760	
電算機保守原価					
1. 労務費		2,011,355	58.8	2,083,134	57.8
2. 外注費		523,371	15.3	621,790	17.2
3. その他の経費		886,639	25.9	900,339	25.0
計		3,421,365	100.0	3,605,265	100.0
機器及び工事売上原価		5,751,000		6,056,026	

(原価計算の方法) ソフトウェアの原価計算は、実際原価による個別原価計算であります。

(注) 1 主な内訳は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
仕掛品からソフトウェアへ振替(千円)	25,560	996

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	2,293,007	2,293,007
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,293,007	2,293,007
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	2,359,610	2,359,610
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,359,610	2,359,610
資本剰余金合計		
当期首残高	2,359,610	2,359,610
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	2,359,610	2,359,610
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	220,200	220,200
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	220,200	220,200
その他利益剰余金		
別途積立金		
当期首残高	352,801	352,801
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	352,801	352,801
繰越利益剰余金		
当期首残高	694,628	715,318
当期変動額		
剰余金の配当	28,343	37,797
当期純利益又は当期純損失()	49,262	244,819
自己株式の処分	229	-
当期変動額合計	20,690	282,616
当期末残高	715,318	432,702
利益剰余金合計		
当期首残高	1,267,630	1,288,320
当期変動額		
剰余金の配当	28,343	37,797
当期純利益又は当期純損失()	49,262	244,819
自己株式の処分	229	-
当期変動額合計	20,690	282,616
当期末残高	1,288,320	1,005,704

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
自己株式		
当期首残高	137,445	136,972
当期変動額		
自己株式の取得	463	232
自己株式の処分	936	-
当期変動額合計	472	232
当期末残高	136,972	137,205
株主資本合計		
当期首残高	5,782,802	5,803,965
当期変動額		
剰余金の配当	28,343	37,797
当期純利益又は当期純損失()	49,262	244,819
自己株式の取得	463	232
自己株式の処分	707	-
当期変動額合計	21,162	282,849
当期末残高	5,803,965	5,521,116
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	31,776	15,011
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	16,765	4,093
当期変動額合計	16,765	4,093
当期末残高	15,011	10,917
評価・換算差額等合計		
当期首残高	31,776	15,011
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	16,765	4,093
当期変動額合計	16,765	4,093
当期末残高	15,011	10,917
純資産合計		
当期首残高	5,814,579	5,818,977
当期変動額		
剰余金の配当	28,343	37,797
当期純利益又は当期純損失()	49,262	244,819
自己株式の取得	463	232
自己株式の処分	707	-
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	16,765	4,093
当期変動額合計	4,397	286,942
当期末残高	5,818,977	5,532,034

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法
 - 子会社株式
総平均法による原価法
 - その他有価証券
時価のあるもの
決算日前1ヶ月の市場価格等の平均に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
 - 時価のないもの
総平均法による原価法
2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法
 - デリバティブ 時価法
3. たな卸資産の評価基準及び評価方法
 - 商品 移動平均法による原価法
 - 仕掛品 個別法による原価法
 - なお、貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定しております。
4. 固定資産の減価償却の方法
 - 有形固定資産（リース資産を除く）
平成10年4月1日以降取得した建物（附属設備を除く）については定額法、それ以外の有形固定資産については定率法を採用しております。主な耐用年数は建物50年、工具、器具及び備品5年であります。
 - 無形固定資産（リース資産を除く）
 - (1) 市場販売目的のソフトウェア
見込販売数量を基準として販売数量に応じた割合に基づく償却額と、販売可能期間（3年）に基づく償却額のいずれか多い金額をもって償却する方法によっております。
 - (2) 自社利用目的のソフトウェア
社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。
 - (3) その他の無形固定資産
定額法によっております。
 - リース資産
所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産はリース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を引き続き採用しております。
 - 長期前払費用
定額法によっております。
5. 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準
 - 外貨建金銭債権債務については、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。
6. 引当金の計上基準
 - (1) 貸倒引当金
債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。
 - (2) 賞与引当金
従業員の賞与の支払に備えるため、将来の支給見込額のうち当期の負担額を計上しております。
 - (3) 役員賞与引当金
役員に対して支給する賞与の支払に備えるため、支給見込額に基づき計上しております。
なお、当事業年度末の残高はありません。
 - (4) 受注損失引当金
受注契約に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末における受注契約に係る損失見込額を計上しております。
 - (5) 退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。
なお、数理計算上の差異については、その発生年度に一括損益処理しております。
 - (6) 役員退職慰労引当金
第49期定時株主総会（平成19年6月28日開催）をもって役員退職慰労金制度を廃止いたしました。同日以前に在任した役員については、その日以前の在任期間に対して内規の効力を有するため、当該内規に基づく支給見込額を役員退職慰労引当金として計上しております。従って、同日以降の新規計上は行っておりません。

7. 収益及び費用の計上基準

受注制作のソフトウェアに係る収益の認識基準

当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる場合については工事進行基準を適用し、その他の場合については工事完成基準を適用しております。

なお、工事進行基準を適用する場合の当事業年度末における進捗度の見積りは、原価比例法を用いております。

8. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。また、為替予約が付されている外貨建金銭債権債務については振当処理を、特例処理の要件を満たす金利スワップについては特例処理をそれぞれ採用しております。

なお、当事業年度末の残高はありません。

(2) ヘッジ手段とヘッジ対象

- ・ヘッジ手段...為替予約取引及び金利スワップ取引
- ・ヘッジ対象...外貨建債権債務及び借入金利

(3) ヘッジ方針

為替予約は外貨建金銭債権債務の決済において必要とされる範囲内で、金利スワップは資金調達に係る金利の範囲内でそれぞれ行っております。

(4) ヘッジ有効性評価の方法

為替予約については、ヘッジ対象と同一通貨建・同一金額・同一期日のものに限定しているため、その後の為替相場の変動による相関関係は確保されております。また金利スワップについては、ヘッジ手段の想定元本とヘッジ対象に関する重要な条件が同一であり、かつ、ヘッジ開始時及びその後も継続してキャッシュ・フローの変動を完全に相殺するものと想定することができます。従って、それぞれのヘッジの有効性の判定は省略していません。

9. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

1 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
建物	55,587千円	53,073千円
土地	84,336	84,336
計	139,923	137,409

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
短期借入金	450,000千円	550,000千円
長期借入金	100,000	-
計	550,000	550,000

(注) 根抵当権によって担保されている債務については、期末残高又は極度額のいずれか少ない金額で記載しております。

2 関係会社項目

関係会社に対する資産及び負債には区分掲記されたもののほか次のものがあります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
流動資産		
売掛金	6,467千円	7,673千円
流動負債		
買掛金	8,053	10,065

3 期末日満期手形

期末日満期手形の会計処理については、当事業年度の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しております。期末日満期手形の金額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
受取手形	- 千円	17,568千円

(損益計算書関係)

1 他勘定振替高の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
機器及び工事売上原価へ	20,337千円	20,799千円
その他	2,100	-
計	22,437	20,799

2 売上原価に含まれている収益性の低下による仕掛品の簿価切下額

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
	15,039千円	14,358千円

3 売上原価に含まれている受注損失引当金繰入額

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
	40,636千円	12,574千円

4 減損損失

当社は以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前事業年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

場所	用途	種類
宮城県仙台市	事業用資産	建物、工具、器具及び備品等
福島県福島市	事業用資産	建物、工具、器具及び備品等
香川県高松市	事業用資産	建物、工具、器具及び備品等
愛媛県松山市	事業用資産	建物、工具、器具及び備品等
東京都大田区	事業用資産	工具、器具及び備品等
埼玉県さいたま市	事業用資産	工具、器具及び備品等
長野県上田市	事業用資産	工具、器具及び備品等

当社は、事業用資産については事業所別、遊休資産については物件毎にグルーピングを行っております。当事業年度において、上記資産グループの営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に19,822千円計上しております。

その内訳は、建物2,097千円、工具、器具及び備品12,190千円、その他5,533千円であります。資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しております。使用価値については将来キャッシュ・フローを3.0%で割り引いて算定しております。

当事業年度（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）

場所	用途	種類
群馬県高崎市	事業用資産	建物、工具、器具及び備品等
大阪府大阪市	事業用資産	建物、工具、器具及び備品等
東京都大田区	事業用資産	建物、工具、器具及び備品等
埼玉県さいたま市	事業用資産	建物、工具、器具及び備品
東京都千代田区	事業用資産	工具、器具及び備品等
愛媛県松山市	事業用資産	工具、器具及び備品
香川県高松市	事業用資産	工具、器具及び備品
長野県上田市	事業用資産	工具、器具及び備品
栃木県宇都宮市	事業用資産	工具、器具及び備品

当社は、事業用資産については事業所別、遊休資産については物件毎にグルーピングを行っております。当事業年度において、上記資産グループの営業活動から生ずる損益が継続してマイナスである資産グループおよび処分予定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に86,818千円計上しております。

その内訳は、建物29,766千円、工具、器具及び備品25,378千円、ソフトウェア9,284千円、電話加入権1,368千円、その他20千円および解体費用21,000千円であります。資産グループの回収可能価額は使用価値により測定しております。使用価値については将来キャッシュ・フローを3.1%で割り引いて算定しております。なお、処分予定資産については使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローが見込めないため、回収可能価額は無いものとしております。

5 貸倒引当金繰入額のうち関係会社に対するもの

前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
5,000千円	35,500千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度（自平成22年4月1日至平成23年3月31日）

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式(注)	721	3	4	720
合計	721	3	4	720

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取による増加であり、株式数の減少は、単元未満株式の売渡による減少であります。

当事業年度（自平成23年4月1日至平成24年3月31日）

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首株式数(千株)	当事業年度増加株式数(千株)	当事業年度減少株式数(千株)	当事業年度末株式数(千株)
普通株式(注)	720	1	-	722
合計	720	1	-	722

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加は、単元未満株式の買取による増加であります。

(リース取引関係)

1. ファイナンス・リース取引
所有権移転外ファイナンス・リース取引
リース資産の内容
有形固定資産

事業における生産設備(車両運搬具、工具、器具及び備品)であります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「4. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額

(単位：千円)

	前事業年度(平成23年3月31日)			
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	減損損失累計額相当額	期末残高相当額
車両運搬具	12,012	9,774	2,237	-
工具、器具及び備品	8,385	8,385	-	-
合計	20,397	18,159	2,237	-

(単位：千円)

	当事業年度(平成24年3月31日)			
	取得価額相当額	減価償却累計額相当額	減損損失累計額相当額	期末残高相当額
車両運搬具	8,978	8,466	512	-

(2) 未経過リース料期末残高相当額等

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
未経過リース料期末残高相当額		
1年内	1,694	505
1年超	505	-
合計	2,199	505
リース資産減損勘定の残高	2,237	512

(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額、支払利息相当額及び減損損失

(単位：千円)

	前事業年度 (自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)	当事業年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)
支払リース料	2,224	1,725
リース資産減損勘定の取崩額	1,350	1,725
減価償却費相当額	2,000	1,617
支払利息相当額	66	31
減損損失	689	-

(4) 減価償却費相当額及び利息相当額の算定方法

減価償却費相当額

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

利息相当額

リース料総額とリース物件の取得価額相当額との差額を利息相当額とし、各期への配分方法については、利息法によっております。

(減損損失について)

リース資産に配分された減損損失はありません。

2. オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1年内	3,319	3,319
1年超	5,816	2,497
合計	9,135	5,816

(有価証券関係)

前事業年度(自平成22年4月1日 至平成23年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式 - 千円、関連会社株式 - 千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度(自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額 子会社株式 - 千円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
繰延税金資産(流動)		
賞与引当金	121,353千円	111,369千円
商品評価損	5,012	5,139
未払事業税	8,941	7,821
未払費用	14,971	14,729
受注損失引当金	16,498	4,779
その他	14,787	19,637
繰延税金資産 小計	181,564	163,476
評価性引当額	1,396	45
繰延税金資産 合計	180,167	163,430
繰延税金資産(固定)		
退職給付引当金	526,296	534,844
貸倒引当金	49,287	55,151
役員退職慰労引当金	53,674	45,139
投資有価証券評価損	44,779	39,417
その他	82,801	91,706
繰延税金資産 小計	756,839	766,259
評価性引当額	200,670	180,468
繰延税金資産 合計	556,168	585,790
繰延税金負債(固定)		
その他有価証券評価差額金	10,260	5,388
その他	7,045	5,029
繰延税金負債 合計	17,305	10,418
繰延税金資産の純額	538,863	575,372

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
法定実効税率	40.6%	40.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	9.3	8.0
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.6	0.7
評価性引当額	9.7	1.7
住民税均等割	13.6	11.2
実効税率変更による増減	-	35.5
その他	0.4	0.0
税効果会計適用後の法人税等の負担率	72.2	15.1

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)及び「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引下げ及び復興特別法人税の課税が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の40.6%から平成24年4月1日に開始する事業年度から平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については38.01%に、平成27年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については、35.64%となります。

この税率変更により、繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は74,938千円減少し、法人税等調整額が75,688千円、その他有価証券評価差額金が749千円、それぞれ増加しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

イ 当該資産除去債務の概要

賃借事務所の不動産賃貸借契約に伴う原状回復義務等であります。

ロ 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から15年と見積り、割引率は1.885%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

ハ 当該資産除去債務の総額の増減

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
期首残高(注)	57,090千円	57,649千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	1,002	-
時の経過による調整額	1,003	1,021
資産除去債務の履行による減少額	1,447	-
期末残高	57,649	58,671

(注) 前事業年度の「期首残高」は「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用したことによる期首時点における残高であります。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
1株当たり純資産額	615.81円	585.56円
1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額()	5.21円	25.91円

(注) 1. 当事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、1株当たり当期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。なお、前事業年度の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額又は1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月31日)	当事業年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月31日)
当期純利益金額又は当期純損失金額()(千円)	49,262	244,819
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益金額又は当期純損失金額()(千円)	49,262	244,819
期中平均株式数(株)	9,449,030	9,448,265

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

【株式】

銘柄		株式数(株)	貸借対照表計上額 (千円)	
投資有価証券	その他有価証券	富士通株式会社	96,236	42,247
		ジャパンケーブルネット株式会社	1,160	41,000
		株式会社東芝	67,438	24,345
		グローリー株式会社	13,537	23,568
		東京特殊電線株式会社	196,881	19,294
		株式会社横浜銀行	42,870	17,448
		ダイヤモンド電機株式会社	43,145	16,912
		株式会社りそなホールディングス	37,150	14,748
		日置電機株式会社	9,700	14,346
		株式会社小野測器	43,441	13,510
		その他(24銘柄)	324,397	89,305
計		875,955	316,727	

【その他】

種類及び銘柄		投資口数等(口)	貸借対照表計上額 (千円)
投資有価証券	その他有価証券 (社債) 株式会社蒼天	12	3,000
計		12	3,000

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価償却累計額又は償却累計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末残高 (千円)
有形固定資産							
建物	524,985	680	126,529 (29,766)	399,136	292,349	12,669	106,787
構築物	6,623	-	21	6,602	6,529	65	73
工具、器具及び備品	389,684	27,217	107,048 (25,378)	309,853	278,360	39,218	31,493
土地	560,282	-	-	560,282	-	-	560,282
有形固定資産計	1,481,575	27,898	233,599 (55,145)	1,275,874	577,239	51,953	698,635
無形固定資産							
ソフトウェア	38,575	9,147	12,029 (9,284)	35,694	12,848	8,229	22,846
ソフトウェア仮勘定	45,086	31,415	-	76,502	-	-	76,502
電話加入権	16,905	-	1,368 (1,368)	15,537	-	-	15,537
その他	4,796	-	418 (20)	4,378	4,159	239	218
無形固定資産計	105,364	40,563	13,815 (10,673)	132,112	17,007	8,469	115,104
長期前払費用	2,798	696	-	3,494	1,469	854	2,024

- (注) 1. ソフトウェアの取得価額の当期首残高には前期中に償却済となった2,464千円を除いて表示しております。また、取得価額の期末残高及び減価償却累計額には当期中に償却済となったものが5,169千円含まれております。
2. 長期前払費用の取得価額の当期首残高には前期中に償却済となった3,261千円を除いて表示しております。また、取得価額の期末残高及び減価償却累計額には当期中に償却済となったものが372千円含まれております。
3. 当期減少額の()内は内書きで減損損失の計上額を表示しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	131,180	37,905	353	6,696	162,036
賞与引当金	298,900	293,000	298,900	-	293,000
受注損失引当金	40,636	12,574	40,636	-	12,574
役員退職慰労引当金	132,203	-	7,804	-	124,398

- (注) 貸倒引当金の減少額の「その他」6,696千円は回収及び洗替によるものであります。

(2)【主な資産及び負債の内容】

資産の部

1) 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	1,678
預金	
当座預金	638,776
普通預金	2,785,696
通知預金	300,000
小計	3,724,473
合計	3,726,151

2) 受取手形

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
日立アロカメディカル株式会社(注)	139,922
富士部品工業株式会社	20,344
サクラ精機株式会社	8,172
株式会社吉田製作所	8,028
株式会社コースメディア	7,341
その他	76,186
合計	259,995

(注) 同社に対する電子記録債権を含んでおります。

(ロ) 期日別内訳

期日別	金額(千円)
平成24年4月	67,626
5月	64,742
6月	50,450
7月	74,753
8月	2,422
合計	259,995

3) 売掛金

(イ) 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
株式会社富士通エフサス	646,286
富士通株式会社	261,652
東芝メディカルシステムズ株式会社	200,962
高压ガス保安協会	179,171
J A三井リース株式会社	130,439
その他	3,113,019
合計	4,531,531

(ロ) 売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (千円)	当期発生高 (千円)	当期回収高 (千円)	当期末残高 (千円)	回収率(%)	滞留期間(日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	(A) + (D) 2 (B) 366
4,133,410	19,590,645	19,192,525	4,531,531	80.9	80.9

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

4) 商品

区分	金額(千円)
電子部品	151,851
情報関連機器	252,744
合計	404,596

5) 仕掛品

区分	金額(千円)
システム・ソフトウェア開発	112,777
合計	112,777

負債の部

1) 買掛金

相手先	金額(千円)
富士通株式会社	910,572
東京特殊電線株式会社	182,345
ダイワボウ情報システム株式会社	138,703
富士電機株式会社	96,307
富士通コンポーネント株式会社	72,211
その他	862,607
合計	2,262,747

2) 短期借入金

相手先	金額(千円)
株式会社りそな銀行	400,000
株式会社みずほ銀行	300,000
株式会社横浜銀行	130,000
株式会社三井住友銀行	100,000
三菱UFJ信託銀行株式会社	50,000
合計	980,000

3) 退職給付引当金

区分	金額(千円)
退職給付債務	2,871,760
年金資産	1,404,423
合計	1,467,337

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	無料
公告掲載方法	東京都において発行する日本経済新聞
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有していません。

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第53期）（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）平成23年6月29日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

事業年度（第53期）（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）平成23年6月29日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第54期第1四半期）（自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日）平成23年8月12日関東財務局長に提出

（第54期第2四半期）（自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日）平成23年11月11日関東財務局長に提出

（第54期第3四半期）（自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日）平成23年2月10日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成23年7月1日関東財務局に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年6月28日

ソレキア株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松村 浩司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 坂本 一朗 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているソレキア株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ソレキア株式会社及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、ソレキア株式会社の平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、ソレキア株式会社が平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 . 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。

2 . 連結財務諸表の範囲にはX B R L データ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成24年6月28日

ソレキア株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 松村 浩司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 坂本 一朗 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているソレキア株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第54期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、ソレキア株式会社の平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 財務諸表の範囲にはXBR Lデータ自体は含まれていません。